

## 谷崎潤一郎「彷徨」のモデル

## 小林良吉の明治三十七年日記全文

山口 政幸

以下に掲げる日記本文は、小林良吉<sup>のりよし</sup>の明治三十七年（一九〇四）における一年分の日記全文である。良吉はこの年数え年で二十才。翌年九月に入学することになる第一高等学校入学のための受験勉強に追われていた。それまでの良吉は、故郷の山形県新庄から上京後に入学した東京高等農学校（現・東京農業大学）を前年の明治三十六年七月に卒業し、さらに上級の学校へと進学するため二松学舎の夜学に通うなどして父親の許可を受け、東京府立第四中学校（現・都立戸山高校）の専門学校入学者検定試験を五月十六日から受けるが、失敗してしまう。その後、神田の正則予備校に行くのをやめ、下宿先での浪人生活をするが、九月には大成中学校五年生に籍を置くようになる。住居としては農学校時代の赤坂区南青山から転居して、招魂社付近の神田区域に在住している様子だが、詳細は確認できない。十月に本郷の朝日館という下宿に移っている。

明治三十七年と言えば、言うまでもなく日露戦争開戦の年である。良吉の日記にも二月五日に町の様子や海戦を報じる号外などが書き記されているが、彼の心のうちを大きく支配しているのは、何と言っても進学のための自身の勉強にはかならない。未曾有の国家的危機に直面している大戦下にありながら、良吉にとって切実なのは、数学や英語といった受験科目の出来、不出来なのである。しかし、それは良吉ばかりではない。彼らの仲間うちでは、受験こ

そが〈来ルベキ大戦闘〉(二月五日)として平気で語られてゆく。こうした彼のまわりにいる、良吉と同じような立場の受験生の様子が、この日記では実に生き生きと描かれているのである。良吉は其中で〈余モ次回ノ入学試験ニ応ズベキナル〉(七月十四日)としながらも、自身の学力について不安を覚え、自らを叱咤激励する日々を送っている。それは切ないほどだ。そうかと思うと、友人によって一高の食堂につれて行かれた際など、〈来秋ヨリハ余モ此処ノ人トナルカト思ヘバ〉(十一月十一日)といった自信のほどをうかがわせていたりもする。下宿先を本郷に移したのも、一高入学への強い意志のあらわれと解せよう。

そういった彼のもうひとつ見逃せない面は、本郷教会との関係から生み出された彼の信仰の側面である。本日記の所有者である良吉のお孫さんにあたる小林昭一郎氏から直接うかがったところによると、新庄へ帰郷してからの良吉の半生に、クリスチャンとしての行動はいつさい認められないという。つまり、彼の信仰生活はこの明治末年の上京時代に限られる。年齢で言えば十代の後半から始まり二十代のうちに終りを迎えたらしい。いわば青年期の一時的なものだったわけだが、この信仰の疑義から離反への経緯が、谷崎の初期の未完小説「彷徨」(明治四十四年二月、「新思潮」)の重要なモチーフとして生かされているのである。

小林良吉という一高時代の同級生がモデルとして使われたことについては、早くから津島寿一によって、「墓」(大正二年一月、春陽堂)との関係が指摘されてきた。(津島寿一『谷崎潤一郎君のこと』昭和四十年三月、芳塘刊行会、一二〇頁)しかし、「墓」の原型になったこの「彷徨」こそ、小林がモデルとなった最初の作品である。すでにこの点は、野村尚吾が『伝記 谷崎潤一郎』(昭和四十七年五月、六興出版、一四三頁)の中で〈この作の舞台については、おそらく山形出身の友人の小林良吉から聞いたものではなからうか〉との指摘をしていたが、それは単なる新庄という地方都市の背景の情報にとどまらない。君島一郎は『朶寮一番室』(昭和四十二年十二月、時事新報社、

六六頁)の中で、間接的ながら「小林が大学に行つてから崩れ出した」ことを伝えているが、今回この日記によつて、実際の小林にかなり熱心な教会との結びつきがあつたことが確認できたのは、一つの発見だった。「彷徨」の主人公猪瀬は新庄から上京し、東京の農学校へ通い、やがてクリスチャンから離脱していくが、谷崎はかなり忠実にこの一高時代の友人のプロフィールを「彷徨」という作品に使っていると言つてよいだろう。

良吉の信仰生活は、本郷教会とともにあつた。日記中では、本郷会堂の名でも出てくる。本郷には複数の教会があることから、現在ではこの良吉の通つていた本郷教会は、弓町本郷教会と呼ばれている。この教会の当時の特色を一言で言い表せば、帝大生と女高師を中心とした「書生の教会」であつたことが、太田雅夫らによる同志社大学人文科学研究所の共同研究『新人』『新女界』の研究 二〇世紀初頭キリスト教ジャーナリズム(一九九九年三月、人文書院、二〇六頁)によつて報告されている。当時のこの教会は、海老名弾正という人格によつて牽引されていたと言えよう。徳富蘇峰と同じ熊本バンドの出身で同志社に入り、安中、前橋の教会をへて、この本郷教会で伝道を開始した彼の名は、良吉の日記にも多出しており、「先生」と呼び全幅の信頼を寄せている様がよくわかる。この海老名弾正というカリスマ的な伝道師の存在が、彼と教会との関係を維持させてきたと考えてよいのではないだろうか。そしてここにはたしかに学歴のエリートたちが多く出入りするわけで、それも良吉には魅惑ではあつたろう。信仰の実態に関しては六月十一日に認められるような心静かな祈りも時折みられるが、キリストという神の存在によせる愛というより、日記にあらわれている信仰は勉強や読書といった自己の修養の観念とよく結びついており、教会に關してもつきあいの集合所としての意味と、なにより海老名への傾倒の場としてそこがあつたのが読み取れる。またそれと關係するか、今後考察を要するが、良吉のメンタリティーに「嗚呼返リタヤ元ノ身ニ」(二月十一日)といったような、小学校時代、少年期への回帰願望が認められるのも注目される。おそらくこれは單なる望郷の念だけでなく、六

月三日に端的にあらわれているような青年期の性欲の煩悶と無関係ではあるまい。そして、これは、谷崎の『神童』の最終部分にあらわれた、春之助の子供帰りを示唆してゆく。良吉の体験した少年への回帰や信じるものを失っていく過程、その見え隠れする性の煩悶などは、谷崎の半自伝的と目される一連の小説の太い主題を形成したとはみなせないだろうか。「異端者の悲しみはしがき」（大正六年七月、「中央公論」）に「予の境遇に多少似よりの一青年に仮託して」と書いた谷崎は、実はこの「彷徨」あたりから引き継いだ良吉の存在をはっきりと念頭に置いていたと考えられるのである。

日記は博文館発行の明治三十七年当用日記である。縦十五センチ、横十センチ、灰色の厚いクロース表紙で、最終ページの広告によれば、これは「小形上製」版の当用日記で、百三十余ページ、定価は三十銭である。一ページごとに日付がかわっていく体裁になっていて、一ページに九行の縦罫が引かれている。各ページの天地には、上に俳諧や漢詩などの詩文が、下には当日に起こった歴史的事象が印刷されている。良吉は鉛筆で記した。字はくずしていないが、独特の略し方をしており、たいそう読みづらい。およそ判読に困難なものもあるが、昭一郎氏のご助言を参考に、ほぼ解読につとめた。良吉の残した記述としては本文のほかに、雑誌購入の際の値を記した金銭出入録が二ページほどと、住所人名録に五ページほどの人名と住所の記載があるが、今回は省略した。この当用日記の末尾の付録は各都市の人口から公債一覧、利子早見表、鉱物製出高、軍艦の数までと非常に盛りだくさんで充実している。その中にある「諸学校」の一覧によれば、高等学校は全国で八校、私立の専門学校は四十五校、同じく私立の中学は三十四校となっている。おそらく良吉は、この諸学校の学生数の中に今いる自分や将来進むべき自分のすがたを重ねていたことだろう。

なお、本研究は平成十八年度専修大学研究助成「作家の青春と青春小説の関係」に基づくことを断っておく。

一月 一日 金 四方拝 天気 快晴 暖

朝叔父上ト共ニ吉高氏ノ室ニテ屠蘇ヲ祝フ、

新春ノ陽氣ハ早ク室ニ充ツ、

例ニヨリ麻布戸沢邸ニ到レルハ十一時頃ナリシ、義友会、新年宴会ノ出席者モトシゴトニ少クナニ成リ行ク様子ナリ、年ノ移ルニ從ヒテ青年ノ嗜好モ次第ニ變遷シテ暴飲牧歌以テ自ラ壮ナリトセン以前ノ風習ハ何時シカ消ヘ去リツ、アルノ現象ト云フベク嘉スベキ事ニ豈ニ之レノミナランヤ、碎々タル形式ニ甘ンゼルニ至レルハ踵ヲ接シテ年賀ニ至リ応接ニ暇ナカリシ數年前ノ面影次第ニ衰ヘツ、アルノ事実ニ徴シテ知ルベシ、  
例ニヨリテ例ノ如キ無味乾燥セル形式的年賀狀ニ不服ヲ抱ク事久シ乃チ本年ハ莫逆ノ友ニ限り新タニ所感ヲ草シテ認メヤレリ（左ノ如ク）

あらたまる廿七年今ぞ来ぬ輝き出づる朝日ニハみち／＼たり志愛の光と天の陽氣と、軒端の小雀がたゝふる讚美にさめて起くるにあだになたちて、古きけがれはぬぎすて、そのまゝに、まどふ清新のさ衣は、愛とまことのそれにしてそはエンゼルが持ち来たさなむ。

一月 二日 土 天気 晴 和

十時頃ヨリハ叔父上ト共ニ本郷西片町ナル竹村先生ノ許ニ年賀ニ至ル、酒モ飲マザレバ面白クモナク暫クシテ獨リ辭シ去リ小石川ノ佐々木先生ヲ訪ル、先生ハ旅行中ナリ、

例年ノ如クコ、二三日ハ止メラル、事トナリテ手伝旁、ニ賓客ノ応接等ニ当ル、

午后ヨリ夜ニ掛ケテ酒宴盛ニシテ上ヲ下ヘト混雜セリ、酒飲マヌ身ヨリハ誠ニ無味無趣ナル事ニ見ユ、彼レ等ハ斯

シテ天賦ノ精力ヲ消耗シツ、アルナリ、趣味ヲ墮落セシメツ、アルナリ、

一月 三日 日 元始祭 天氣 快晴 暖

此日ヨリハ例ニヨリ来客モ少ケレバ同僚ノ河上英雄君、樫岡徹君等ト追羽根シテ遊ブ、昼過ギテヨリハ奥様モ入り交ル、一段ノ興ヲ添フ、何時モナガラ奥様ノ柔和ナル中ニ快活ニシテ而モ寸毫ノ嫌味ナキ御性ハ誠ニ慕ハシクテ、此夜モ止ル心詛ナリシモ少シク風邪ノ氣アリニシヨリ皆々ノ止ムルヲ辞シ去リシハ九時過ギニシテ明月ヲ踏ンデ皈ル、

一月 四日 月 天氣 善 冷

昨来ノ風邪ノ為メ……ニ加フル情氣ヲ生ジタル為メ午頃迄床中ニ呻吟ス、誠ニ自ラ願シテ不得要領ノ事トモナリ、即シテ邪氣未ダ去ラズ、

午后ニ同窓ノ藤縄章三君ノ来訪アリ氏ハ此頃早稲田大学専門部政事科ニ学バル、云ハズモガナ野心勃勃々ノ青年而モ言葉少ク常ニ多ク沈黙ヲ守ルト雖モ亦所謂多恨ノ人、其学事ニ対スル小心翼々タル素性ト満腔ノ野心ヲ包メル胸トハ常ニ余ト投合スルナリ、

一月 五日 火 天氣

午前ハ雜誌買ヒニ出掛ケ飯途鈴木珪二君ト出会ヒ共ニ飯ル例ニヨリテ昼飯ニハ健啖ヲ競フ亦盛シナリ、小心翼々タルノ性状ノミヲ以テ満足タル能ハザル余ハ氏ノ如キ何処迄モイヤ味ナキ單純ナル性質ヲ慕フナリ、氏ハ此度入営セラ

レタル近衛第一聯隊ノ二等卒ナリ、

夜ハ九段中坂ノら処ニ同郷出身ノ軍医細谷権吉氏ヲ訪ル、恰モ好シ国元ヨリ弟君ノ贈リコサレタリテフ山雉ノ一羽アリシヲ幸、氏ヲ手伝ヒテ自ラ料理シ美味ニ舌鼓ヲ打ツコト宜シク、氏ノ無頓着ナル平然トシテマナ板ニデバヲ命ジ女中共ノ狂シカル風情ヲ目ニモ掛ケズ御得意専門ノ筋目骨格ノ組織等説明シツ、解剖シ終リ自ラ鍋ニシテ進メラレタルバ一段ノ佳味ヲ添ヘタリ、販り途ニトアル橋上ニ出ヅレバ折柄ノ名月高ク掛リテ堀割リニ影ヲ宿シ、冷風徐々ニ面ヲ掃セ満々タル腹ヲ抱ヘタル身ニハイトド心持ヨケレバ項門玉斗柳如雪……等ト二声三声高ラカニ嘯キヌ、

一月 六日 水

天気 善 和

終日家ニアリ、格別為ス事モナク、夜ハ森松蔵君来訪君ガ得意ノ美音ニヨク歌ヒ出デラレタル松前節ニ耳ヲ傾ケテ暫シガ程ハ恍惚トシテ身ハ白波打チ寄スル浜辺、サテハ満月緑樹鬱タル深山ニ在ルモノ、如ク名誉利欲ノ巷ハ夢ダニ見ヌ、樵夫漁老ト化シ去リヌ。

ツラ／＼観ズル二人ノ子程妙ナルハナシ、神心静隠ニシテ善ヲ仰ギ美ヲ慕フノ時ハ汚レタル心ハ露程モナク専心真善美ナル大御神ヲ慕ヒ求メ古ヘノ聖者ヲ仰ギ憧ルレドモ、サテ果ナキ事ヨリ一度邪念邪欲ノ内ニ芽ザシ燃ヘ立ツ事ノアラシカ忽チニシテ夜見ノ国ニ狂ヒ荒ル、テフ恐ロシノ狂女モ斯ヤト思ハル、浅マシキ身ト化シ終リ清キ美ハシキ真心ハ何処ヘカ消ヘ去リ我身一ツハ我真心ニ反シ只情欲ノ問フマニ／＼弄バル、果ナサ、ソモ只風ノ吹キ荒ル、一瞬時覺ムレバ元ノ真心ニ攻メ立テラレ侮辱セラレテヤルセナキ思ヒニ沈ミ身モ靈モ無キ処ナキ辛キ目ヲ観ルガ常ナレド、堅キ心ノ力ニヨリ大御心ニ適フモノト己ヲ導ク事能ハザルアハレサ、嗚呼何レノ時迄カ困苦、不快、不安ノ人ニシテ続カザル可ラザルカ、何レノ日カ勇マシキ勝利ノ讚美ヲ唱フルニ至リ得ル者ゾ、

一月 七日 木 天気 善 冷

兼テヨリ思ヒ構フル処アリシヲ以テ麹町区ナル三島博士ノ二松学舎ヲ訪ル、幹事ト見ユル青年ノイトモ親切ニシテ世ノ常ノ小役人ラシキ嫌味ナク誠孔孟ノ道ニ磨カレタル美ハシノ若者ト見取ラレ人格ノ程俾バレテ慕ハシカリシ、此ノ時ヨリ入舎ノ心切ナリ、

風邪ノ氣味増シ加ハリタレバ夕方ヨリ床ニ入ル、

一月 八日 金 天気 善 冷

英学会モ此日ヨリ始マルナレド午前中ハ床ニアリテ保養ス未ダ全ク快ナラザレバナリ、

夜ハ飯塚惣一君來訪昨今我同窓ノ各処ヲ得テ或ハ官ニ或ハ野ニ得意ノ技量ヲ振フベク武者振リ雄々シク出立セルヲ聞キテ人ノ身ナガラ快ヲ感ジタリ、我身一ツハ元ノ身ニシテ、

自顧ミテハ胸中無一物ニシテ社会ニ出ヅルモ何ノ役ニモ立タヌベク思ハレテモサテ世ニ出デ、ハ世人我ヲ目ニスルニ相当ノ教養アルモノトナシ且ツハ手ニサヘスレバ兎ニ角為シ得ル事ノミナリトハ氏ノ談話ナルガゲニ左モアランカトハ思ハル、

一月 九日 土 天気

此日ヨリ英学会ニ出席ス尔来ハ午前ノ部ニ通フ事トナレヌ、午后ハ散歩旁ニ九段ナル体育会ニ至リスケーチング等傍觀シテ自ラ爽快ヲ覚ヘタリ、金棒、ブランコ等ニテ可ナリノ運動シテ飯ル、斯シテ得タル爽快ナル精神ヲ以テ読書スルニ一段ノ進捗ヲ見ル、此ニ於テカ亦運動ハ運動ノ為メニア



ラズシテ反テ勉強ノ為ニスルナル我主義ニ思ヒ至ル、

夜ハ熊谷敬助君来訪氏ノ快活ナル談話ニハ知ラズ、引キ入レラレテ元氣付タリ餅等火ニシテ九時頃迄談笑ス「たい  
 そうなお楽しみの様でしたな」ト御姉さんノ言葉モ御世辞ノミニアラズ聴キ取ラレタリ、談話中ニハ故郷ノ小学校時  
 代サテハ嚴冬ノ豪壮ナル風景等思ヒ起サレテ感慨無量ナルモノアリ興奮ノ極点ニ至リテハ共ニ叫ンデ曰ク嗚呼帰レ  
 ー小児ノ真心ニ……  
 心ノ貧シキ者ハ幸ナリト……

一月 十日 日 天氣 善 和

午前ハ教会ニ

午後ハ鈴木、青戸ノニ氏来訪セラレタルモ別ニ記スベキ程ノ事モナシ、

夜ハ英語等調べ終リ后数学ノ復習ヲ始メタルニ理會シ難キ処ノミ多クテ不快サ云ハン方ナク殆ンド失望ニ沈ミス、

一月 十一日 月 天氣 曇 冷

八時起床、午前ハ学校へ、

夜ハ金田靖彦君来訪吉高氏ノ室ニテ十時頃迄話ス、

最モ得意ノ時代ナリシ新庄小学校ノ頃ヲ想ヒ起シ身ニ振帶ヒ口ニ弁ジタル事共委リ記憶ヲ覺マシ追懷ノ情ニ耐ヘジ、  
 情アル恩師達ノ面影ヲ想ヒ浮ベ、或ハ同窓ニ学ビタル男女ノ同胞ヲ思ヒ出シテ誠今昔ノ感ニ打タル、

嗚呼返リタヤ元ノ身ニ……アハレ紅顔秀眉ノ好少年モ耐ヘザル内心ノ苦悶苦悶ノ為蒼然タル顔ノ中物凄キ眼光ヲ放ツ

ニ至リテハ、

一月 十二日 火

天氣 善 和

六時起床

午后ハ二松学舎ニ至リテ入学ノ手續ヲ經ユ、

夜ハ佐野為雄君來訪君ハ仏教思想ヲ以テ予ハ耶教ノ思想ニヨリ互ニ真面目ニシテ謙讓ナル議論ヲ交換シ結局同一点ニ  
歸着シ心中ノ快哉云フ可ラス、互ニ此タノ会合ノ有益ナリシヲ喜ビテ別ル

一月 十三日 水

天氣 曇 和

午前ハ英学会へ午后ト夜ハ家ニ在リ、

別ニ記スベキ程ノ事モナシ

一月 十四日 木

天氣 曇 和

午前ハ例ノ如ク学校へ、

午后ト夜ハ家ニ在リテ勉強ス

今日ニ初マリシ事ニアラ子ト牛ノ歩ミト遅キ進歩ヲカコツノミ、

一月 十五日 金

天氣 曇 寒

午前ハ学校ニ、午后ハ家ニ在リテ読書ス、

夜ハ伊藤五郎蔵氏来訪蓋シ吉高氏ヲ訪レシモ未ダ販宅シ居ラザルヲ以テナリ、

氏ハフトセシ事情ヨリ竹村先生ヲ家出シテ新庄流浪シ居ルトノ事、

此日ヨリ寒氣ノ増ス事甚ダシ

一月 十六日 土

天氣 曇 寒

昼ノ中ニハ別ニ記スベキ程ノ事ナシ、

此夜ヨリ始メテ二松学舎ニ通学ス本舎ハ文学博士三島中州先生ノ私塾ニシテ漢学ニ於テハ都下実ニ有数ナリトス、

一月 十七日 日

天氣 曇 寒

午前ハ教会へ午后ハ士官学校ノ戸沢正夫氏ト共ニ本郷龍岡町ニ星川清松君ヲ訪ル格別ノ話モナカリシ、

夜ハ家ニ在リテ読書ス

一月 十八日 月

天氣 善 寒

午前ハ学校ニ午后ハ家ニアリテ読書夜ハ二松学舎ニ、細田トヤラ云フ先生ノ史記講義殊ノ外氣ニ入ル、

下校ノ途中等非常ノ寒サニテ肌ニ徹ス、

一月 十九日 火

天氣 曇 寒

午后ト夜ハ家ニアリテ読書セシモ夜ハ充分ノ事モ出来ズ、例ノ如ク通学セル外ハ記スベキ事モナシ、

郵便電信学校ナル水間位彦君ヨリ手紙来ル例ニヨリ向上神ニ充チタル文句ヨリ成リ修養ノ元氣溢ル、返事ヲ認メ送ル

一月 二十日 水

天気 曇 寒

例ニヨリテ例ノ如キ一日格別記スベキ程ノ事ナシ

一月 二十一日 木

天気 曇 寒

此日モ平凡ノ一日

此頃別ニ面白キ感想モナシ只朝起ノ出来ザル事ト夜遅迄精氣ノ続カザルトハ唯一ノ憾ミニシテ新年ニ入りテハ殆ンド之レガ為ニ全身全力ヲ捧グルノ有様ナレ共未ダ全ク已ヲ制シテ志意スル俛ニ起臥、勉強スル事能ハズ不快ノ念ニ耐ヘズサレバトテ天ニ訴フルヲモ敢テスル能ハズ（斯ク迄ニ鉄面皮ナラザレバナリ）

昨今頻リニ神氣ノ衰弱ヲ覺ユルモ朝ヨリ夕ニ至ル迄寸閑ナク夜ヲ日ニ次ギテモ尚足ラザルノ有様ナルゾアハレナル

一月 二十二日 金

天気 曇 寒

別ニ記シ上クベキ程ノ事モナシ

夜ハ金田靖彦君来訪吉高氏ノ室ニテ談笑ス

一月 二十三日 土

天気 曇 寒

外ニ記スベキ程ノ事ナシ、

終日肌ヲ刺スガ如キ寒風ノ吹キ荒レ砂塵ノ加ワル等不快ノ一日、

一月二十四日 日

天気 善 寒

何ト云フ訳アルニアラデ只家ニ引籠リ教会ニ出掛ケシトモセズ、午后ハ青山ナル大屋準藏君ヲ訪ル吉野君モ来リ会シ夜ニ至リ辞シ去ル、練兵場ノ寒風肌ニ徹シ耳モ凝ランバカリナレ共周囲ハ霧ニ被ハレ、停車場ノ電燈、兵營、陸軍大學等薄墨ニテ画タラン如ク見ユルニ何処トモナク美ハシクモ高ラカナル吟声ノ伝ハリ来ル等得モ云ハレヌ景色ナリ、床ニ入りテヨリモ吉高氏ノ室ニテ組ミ交ハシタル茶ノ加減カ中々ニ寝入ル能ハズ午前二時ヲ聞ク迄物思ヒニ沈ミタリ

一月二十五日 月

天気 善 寒

例ノ如ク午前ト夜ノ二時間トハ学校ニテ午后ト夜トハ家ニ在リ

午后ノ内ハ中々ノ根氣ニテ読書研究モ為シ得シ共夜ニ入りテ何分ニ疲労ヲ感ジ思フガ俣ニ行カズ年末来ノ憾ミトスル処ナリ、

宗教ニ関スル私見ノ自内寛大ニ進ミタルニ從ヒ何分ニモ小心翼々惟此神命ヲ奉ズルノ真面目ヲ欠キ克己自ラヲ殺シテ朝ハ未明ニ床ヲ捨テ夜ハ疲レタル眼ヲ励マシテ三更ニ至ルノ惹倦怪シタルモノ無キニ至リ日夜顧ミテ心中思ヒ難キノ不快アリ

一月二十六日 火

天気 善 寒

尔来取り来リタル方針ヲ更ニ英語ノ復習ハ夜ニ譲リ他ノ数理化等ハ午后ニ当テタリ

一月二十七日 水

天氣 善 寒

九時起床学校ヘハ行カズ家ニ在リテ讀書ス、克己自ラヲ引キ立ツル事態ハズシテ時々斯ク如キ墮落ヲ来ス事多シツラ  
 〳〵斯クシテ続キ行ク、行先ノ結果ヲ思フテ汗顔ニ耐ヘズ、無言ノ人ニシテ行フノ人タラザルニ至ルナキカヲ恐ル、  
 ノ念願ナリ、

午后ハ氣晴ラシニトテ森君ヲ訪レ同道ニテ星川君等ヲ訪レシモ結局ツマラヌ會話ニテ得ル処ナシ、  
 実家ヨリ學費送り越ス、

一月二十八日 木

天氣 曇 寒

此日ノ午后ハ風呂ニ行キタル為メカ余リ氣樂ノ身トナリ何事モ為ス処ナカリシ、  
 夜ハ二時頃讀書ス心中ノ快無限、  
 父上ヘ手紙ヲ送ル、

一月二十九日 金

天氣 曇 冷

午后ハ山崎純君來訪、  
 昨春來当宿ニ下宿セラレシ吉高成美氏ハ本日ヲ以テ麻布桜田町ニ構ヘタル新宅ニ移転セラレ、  
 氏ノ如キ人品高潔ノ先輩ヲ去ラシメテハ閑暇時ノ好對手ヲ失フモノト云フベシ、

昨日ヨリ寒氣少シク減少セリ

一月 三十日 土 孝明天皇祭 天氣 曇 和

十時起床間モナク鈴木珪二君來訪午后ヨリハ青戸君ヲ訪レシモ不在ナリシ、

夕方ニモ一二氏ノ來訪アリシモ記スベキ程ノ事モナカリシ、

夜ハ家ニアリテ讀書シ十二時ニ至リテ床ヘ入ル、

終日曇天ナリシ上ニ昨夜ノ雨ニ道路甚ダ宜シカラズ思ノ外二人出ナシ

一月三十一日 日 天氣

六時起床……此頃ノ墮落ニ当リテハ頗ルノ取リ処ナク、

海老名先生ノ説教ノ無キ模様ナリシヲ以テ家ニ在リテ讀書ス、午后ハ大橋圖書館ニ行カンカトモ思ヒ出デシガ風呂等

ニ至リ等シテ余リニ時間ノ余裕ナクナリテ立消ヘトナル、

二月 一日 月 天氣 曇 寒

左程ニ寒クモナシ終日曇天、

別ニ記スベキ程ノ事モナシ、

夜学ノ暇途余リノ名月ナリシヲ以テ其俣ニ皈ルモ惜シク思ハレ九段々頭ニ立チテ牛ヶ淵ニ影ヲウツセル寒月ニ見惚レタリ、ソヨ吹ク風ニ誘ハル、繼ニ反射シタル月ノ光ハ真珠ヲ撒乱セルガ如ク或ハ数万無量ノ螢火ガ狂ヒ戯ル、ガ如ク

生レテ初メテ此氣高キ美觀ニ触レ……特ニ此紅塵ノ都ニ於テハ思ヒモヨラヌ事ナリシ、路行ク人ハ此壮美ナル贈物ニ漏レ只下駄ノ音寒ゲニカラ／＼ト輕ク行キ過ゲ、

二月 二日 火 天氣 曇 寒

午后ハ家ニアリテ数学等ヲ調ブ進歩ノ遅々タルヲ思テモドカシサニ耐ヘズ、  
夜ハ佐野為雄君来訪暫ク雜談ス  
明月昨夜ノ如クナラズ

二月 三日 水 天氣 曇 冷

別ニ記事ナシ、  
終日曇天

二月 四日 木 天氣 曇 和

平凡ノ一日、午前ト夜ハ学校ニ夜ト午后ハ家ニ在リ  
節分ニ当リ処々「福ハ内、鬼ハ外」ノ声聞ユ

二月 五日 金 天氣 曇 和

中島悌治（仙台）君ヨリ手紙至ル例ニヨリ鬱勃タル向上ノ氣ト勃々タル日常ノ奴力ノ様ト紙上ニ彰々タリ、来ルベキ



大戦闘（来ル六月大学予科へノ入学選抜試験Ⅱ之レ君ノ謂フ処）ニ対スル満腔ノ所感ヲ辞シテ元氣筆端ニ溢ル、然ルニ自ラ顧ミレバ未ダ入学志願ノ資格ダニナク夜ヲ日ニ続ギテ努力セ共進歩意フ処ノ十分ノ一二及バズ思ヘバ我身ノ前途ハ未ダ歌ヒツ、進ノ価値アラザルナリ呵、

日露ノ外交此頃ニ至リ益々危機ノ極限ニ達セリト見ヘ号外又号外世ハ一方ナラズ物騒ナリ

二月 六日 土

天気 曇 和

父上ヨリ手紙至リ兼テ請求セシ書籍代贈越ラル、

二松学舎ヨリノ飯途一老翁アリ―頭ハ皆之レ銀髪夫ノ群ト光輝ヲ争フ―意氣大ニ揚レルモノ、如ク地ヲ蹴テ談ジテ曰ク「トウ／＼初マリマス子……ドウカーツ露西亞ノ奴ヲ負カシテヤリタイモンデス子……私ナンカ之デ六十二ニナリマ  
スガ随分色々ナ事ニ遇ヒマシタヨ……日清戦争ハ見ルシ、此度ハ日露戦争ヲ見マセウシ……電車ハ見ルシ」  
此オンニヨ中々ニ面白シト九段坂ヲ下リ降ル迄話シ続ケタリ

二月 七日 日

天気 曇 和

午前ハ教会ニ至ル飯塚惣一君ト会シ共々飯リ昼飯ヲ俱ニシタリ、  
午后ハ本会会堂ニテ聞カルベキ明道会大会、新人愛読者懇親会ニ出席ス格別面白クモナカリシガ薩摩ノ琵琶ノ余興アリシ、

夜ハ中島君ニ返事ヲ認ム此頃我ガ胸ヲ被フ煩悶ヲ吐露シテ筆ノ向フ処自ラ声アリ涙アリヲ覚ユ、日夜力行スルモ、尚且ツ意ノ如クナラザルノ近況ヲ報ジテ聊カ鬱憤ヲ漏ラシタリ、

夜ニ至リテ霰ノ降ル音ス、

二月 八日 月

天氣 曇 和

午后ハ書籍買ヒニ出掛ケタリ、

他ニ記事ナシ、

昨今新聞ニヨリ出デザレ予備兵ノ招集ノ為メ市井ハ兵士ヲ以テ混雜ヲ極ム、

(一二日后ニ至リテ公ニセラレタル出事)

旅順港外ノ大海戰ニ於テ日艦、露艦三隻ヲ轟沈シ大勝ヲ得、

日本艦隊司令長官海軍中將東郷平八郎露國艦隊司令官海軍中將スタルク、

此夜十二時旅順港外ニ於テ日露艦隊砲火初メテ交ル

二月 九日 火

天氣 曇 和

五時起床、決然床ヲ辞シ衆ニ先チテ旭光ニ沐シ正座シテ読書ス心中ノ満足云ヒ難シ——嗚呼日ニ——思ヒヲ碎キテ之ガ

普通性タラン事ヲ願ヘドモ克己ノ心弱キ為メ常ニ徒ラナル一時ノ誘惑ニヨリテ被ハレ経ルノ淺墓ナサ、

昨今ノ新聞、号外ハ已ニ——朝鮮付近ニテ軍隊ノ活動ノ開始セラレタラン如キ報道ヲ持タラセリ、

三四日此方不安ニ思ヒ居タル近衛隊ノ鈴木珪二君ヨリはがき至ル、明日訪問スベキ旨返事ス、

正午、仁川ニ於テ日露艦隊戰ヲ交ヘ露艦二隻此ヲ后沈没ス

二月 十日 水

天気 晴 和

終日各新聞ノ号外ノ音喧シ、

皆旅順口ニ於ル海戦ノ勝利ヲ告グ、

午后近衛隊ノ鈴木君ヲ飯田町河村属ニ訪ル蓋シ此度ノ事件上此ニ移サレタリト見ヘタリ、

夜ハ少シク寒シ、

午后十時三十分、宣戦ノ詔勅下ル

二月 十一日 木

天気 善 和

午前ハ家ニアリテ読書シ午后ハ鈴木珪二君ヲ訪レシモ充分ノ面会時間ヲ得ズシテ皈ル、

夜モ家ニアリテ読書ス、

二月 十二日 金

天気 善 和

此日ハ昇校セズ終日家ニ在リテ読書ス只昼飯過ギト夕飯過ギトニ散歩セルノミ、

夜モ家ニアリテ読書セシガ余リ思フ通りニモ行カザリシ、

二月 十三日 土

天気 善 冷

午前ハ学校へ午後ハ家ニアリテ夜ハ一時間文ケ論語ノ講釈ニ出席ス、

此頃はモ満足ニ感ズルハ数日来引キ続ギ早朝ニ起クルヲ得ルニ至レルニアリ、内ニ元氣ノ勃々禁ジ難キモノアリ、鳴

呼知ルベシ元氣ノ發スル処ハ克己自ラニ至タルヲ得ルノ処タルヲ、此頃ハ次第ニ晴氣ニ向ヘリ、

二月 十四日 日

天氣 善 暖

午前ハ教会ニ出掛ケ、午后ハ佐々木先生ヲ小石川ニ訪ル、河上、榑岡ノ諸氏トノ談話モ樂味アリ夜ニ及ビテ辞シ皈ル、

阪宅后ハ再ビ讀書ヲ始メテ深更ニ至レリ、

二月 十五日 月

天氣 曇 和

午后ハ例ニヨリ家ニアリテ讀書ス、

夜學ノ暇途雨ニ遭フ、久シ振リニテノ降雨ナリ、

二月 十六日 火

天氣 雨 冷

終日曇天時ニハ降雨モアリ夜ニ入りテハ雪トナル

終日終夜家ニ引籠リテ讀書ス、

近衛聯隊ナル鈴木珪二君ニ届クベキ手紙、小包等氏ノ実家ヨリ到ル、小包中ニハ餅一箱ト御守トアリ、真心ヨリ出デタル神茲ニ現ハレ、今ヤ当ニ戰雲ノ中ニ踏ミ入ラントシツ、アルノ愛児ヲ偲フ親心サコソト思ハレテ涙セキアヘズ、ヨソ人ノナカ／＼思ヒ及バヌ煩惱モコソトイト／＼アハレニ、

二月 十七日 水

天気 曇 寒

昨夜中音モ立テズ偲ビヤカニ降り積レル雪今朝見レバ一二寸程賤ガ伏屋モ玉ノ御台ト清メラレヌ、

此日モ終日家ニアリテ読書ス

夕方ヨリ鈴木君ヲ訪ヒ故郷ヨリノ贈物ヲ届ケ一時間許リ会談シテ辞シ去リ二松学舎へ向ヒシモ余ニ本意ナカリシヲ以テ引キ返リテ家ニ入ル、

風サヘ加リテ寒サ一方ナラズ、

二月 十八日 木

天気 曇 寒

此日ハ十時ヨリ昇校午后ト夜ハ家ニ在リ、

夕方再ビ鈴木君ヲ訪レ残ノ物ヲ届ク、

夜ハ何トハナシニ物事ノ手ニ着カヌ俟九時ニ至リテ已、床ニ入レリ

二月 十九日 金

天気 晴 寒

午前ハ昇校、午后ト夜ハ家ニアリテ読書ス、

二月 二十日 土

天気 晴 寒

午前ハ学校へ午後ト夜ハ家ニアリテ読書ス、

二月二十一日 日

天気 曇 暖

午前ハ教会ニ、海老名先生ノ説教ハ「実理の宗教」

午后ハ神田青柳亭ニ開カレタル義友会例会ニ出席ス、例ニナク歌ヒ興ジテ夕方散会ス、

飯途ニハ熊谷敬助、植岡徹ノ二君立寄ラレ、俱ニ打チ解ケテ旧懷談ヨク花ガ咲キ綿々尽クル処ナク十時ニ至リテ折シモ降り出セル風雨ヲ突イテ出デ行カレタリ、此会谈ニヨリテ興奮激発スルモノ甚ダシ、終日蒸シ暑クシテ鬱陶シキ天気ナリシ、

二月二十二日 月

天気 曇 和

午前ハ例ノ如ク昇校午后ハ家ニアリテ読書、夜ハ二時間丈ニ松学舎ニ、要スルニ至極平凡ノ一日、

二月二十三日 火

天気 曇 冷

午後ハ茨城ノ下村準一君來訪久シ振リノ会合ニ話ニ実ガ入り夕方ニ至ル、ソレヨリハ暫ク散策ヲ試ミ古本屋等ヒヤカシタル后一輕軒ニ至リテ洋食ヲ共ニス、

夜モ色々物語ニ時ヲ移シ十一時過ギテ床ニ入ル

二月二十四日 水

天気 曇 冷

午前ハ昇校セズ家ニアリテ下村君ト談笑ス、有益ナル時間ニアラ子ト無邪氣ナルノ故ニ慰ムルニ足レリ、殊ニ下村君ノ購ヒ來タル近刊ノ橋牛全集等ノ傍ラニ在ルノ故ニ面白キ話題モ持ち出サレツ、

二月二十五日 木

天気 曇 寒

下村君ハ外出、

午前ハ昇校午后ハ家ニアリ、

夜ハ佐野為雄君来訪セラレシカ折悪シク下村君ノ留守ナリシヲ以テ失望シテ去ル

二月二十六日 金

天気 曇 寒

午前ハ家ニアリテ英語等調ブ、

午后ハ下村君販リ来ル、夕方ハ共ニ散歩ス寒風強クシテ中々ニ寒シ、

夜ハ桜島ナル旧同窓上山伊平次氏ニ宛テ連名ノ手紙ヲ認ムル事長クモカナト二時間許リ、

二月二十七日 土

天気 曇 寒

午前ハ下村君ニ別レタル後ハ家ニアリテ読書シ午后ヨリハ大橋図書館ニ到ル、蓋シ近刊ノ時代思潮、復活ノ曙光等ヲ

味フノ心組ナリシモ未ダ備ヘ付ケアラザリシヲ以テ樗牛博士ノ文芸評論、時代発見ヲ借り出シ夕方迄閲覧シテ販ル、

夜ハ本郷ナル叔父上ヲ訪レ餅等炙リツ、四方山話ニ時ヲ移シ、本夜ハ宿ル事トナレス、

終日雨雪降り寒気險シ、

二月二十八日 日

天気 曇 和

叔父上ノ許ニテ朝ヲ過ゴシ十時ヨリハ本郷会堂ニ至ル、

午后ハ御屋敷ヲ訪レ折下様ニテ夕飯ヲ饗セラレテ飯ル、

二月二十九日 月

天気

ウツカリシテタモンダカラ、平年ノツモリデ製本ノ誤リヂヤト思ツテ飛ンデシマツタ、  
トンデシマツテ、トンデモナイ事シチャツタ、

三月 一日 火

天気 晴 暖

午前ハ昇校、午后ト夜ハ家ニアリテ読書ス、

昨来ニ打ツテ變ツテ中々ノ暖氣ナリ、

午后ハ家ニアリ夜モ家ニアリテ読書セルモ夜ハ暖氣ノ為メニ全然征復サレ終レヌ不平滿々、亦如何トモスル能ハズ

三月 二日 水

天気 善 暖

午后ハ格別ノ勉強モ出来ザリシガ夜ハ充分ニ読書スルヲ得テ満足云フベキナシ

三月 三日 木

天気 雨 冷

昨夜ヨリ降り出デタル雨止マズ終日降り続ク、

午後一寸買物ニ外出セシ外ハ家ニ引籠リテ読書ス



三月 四日 金

天気 曇 和

朝ヨリ学校へハ行カズ家ニアリテ自習ス、

午前モ午后モ着々ト進歩シ、夜ニ入りテモ亦読書ヲ始メタリシガ星川清松君ノ来訪ニヨリテ寂寞ヲ破ラル、併シ氏ノ来訪ハ有益ノ結果ヲ来タセリ即チ夜ハ談話ノ待ランハ物理学、三角法等ノ問題ノ提ゲ拱サレ有益ナル議論ヲ闘ハシタルヲ以テナリ、此夜ハ斯シテ語り更シツ十二時ヲ聞キテ初メテ相抱キテ床ニ入り後ハ邯鄲青春ノ夢……

夜ニ入りテ雨ドモ降り出ス

三月 五日 土

天気 雨 和

朝ニハ繞簾点福ヲ吟ジツ、床ヨリ出ヅ星川氏ニハ朝飯ヲモ終ヘズシテ辞シ去ラン、今日亦家ニアリテ自習センモノト心組ミナレバ只一本ノ雨傘ト高下駄トハ君ニ貸シヤリツ、

後ハ平凡ノ勉強ヲ続ケ余リノ遠感モ感ゼヌ程ニ努力シ床ニ入りシハ彼レ是レ一時

三月 六日 日

天気 曇 和

九時半頃迄読書シソレヨリハ例ニヨリ清キ礼拝ヲ捧ゲンモノオト本郷会堂ニ至ル、先生、余ガ神観ト題セラレテ説キ出サレ結局ハ神ハ力ナリトノ教ヲ訓ヘラル、又流レ／＼テ日露問題ニ説キ及ボシ、所謂マイテイアーミイニハ確ニ御神ノ御在シマスナリ……神ノ力ニヨリ多ク実現センモノ即チマイテイアーミイタルベシト、而シテ戦ノ裏面ニ演ゼラル、悲劇ニ対シテ満斛ノ同情ヲ寄セラレ語氣為メニ潤ヒ聞クモノ何レモ紅涙ヲ注ギヌ、

午后二時頃迄体育会ニ至リ運動シ夜ハ燈火ニ親シム、

三月 七日 月

天気 曇 和

此日ハ早朝ヨリ更夜ニ至ル迄家ニアリテ読ミ只夕飯后ニ一時間許リ散策ヲ試ミタルノミ、能クモ精氣ノ続く事カナト自ラ驚ク程ナリ、

三月 八日 火

天気 善 和

此日モ亦終日終夜家ニ引籠リテ読書ス、

此頃ハ「学校ヘハ学課ヲ聞カサレニ行クニハアラデ聞キニ行クベシ」トノ考ヘニ基キ自習ヲ主眼トシ学校ノ方ハ第二位ニ置ク事トセリ、反テ実力ヲ養フニハ適當ナリ、

只器械的ニ通学シ居ルモ「ノンセンス」ナリ

此種「ノンセンス」ノ学生至ル処ニ充ツ、戒ムベシ、

三月 九日 水

天気 曇 和

午前ハ昇校ス、

午后ハ例日ノ如キ勉強ハ出来ザリシ、

夜ハ星川清松、井上伸一ノ二氏来訪学課ニ関セル有意義ナル議論、疑義等提出セラル、二時間許リ有意ナル会談ヲ為セル上辞シ皈スル、

三月 十日 木

天気 曇 和

午前ハ少シク勉強ス、

午后ト夜ハ頭痛ノ為メ何モ出来ズ氣モ氣ナラズ不快ニ耐ズ

三月 十一日 金

天気 曇 和

午前ヨリ引キ続キ書籍ニ親シミ夕方ニ至レルモ此間昨来ノ頭痛イマダダ晴ヤラテ充分ノ勉強モ出来ザリシ、  
夕飯後ハ散歩旁ニ本郷ニ森松蔵君ヲ訪レ暫ク雑談ニ時ヲ移シ八時ニ至リテ辞シ帰ル、新庄中学校々友会雑誌借り受ケ  
来リ少カラヌ興味ヲ以テ閲覽セリ、

三月 十二日 土

天気 曇 和

午前中ハ可ナリニ勉強セリ、午后ハ日比谷公園ニ歩ヲ運ビ遊ビ戯レテ帰ル、適當ノ運動ト覺ヘタリ、  
夜ハ少シク読書セルノミ頭痛ノ為メ充分ニ果ス能ハズ

三月 十三日 日

天気 雨 冷

終日雨天、午前ハ例ニヨリ教会へ、午后ハ同ジク我教会ニ於テ徳富蘇峰、姉崎潮風ニ先生ノ講演アル筈ナリシモソレ  
ハハ出席セズシテ星川君ヲ本郷龍岡町ニ訪レ有益ニ快活ニ会談シテ夕方ニ至ル、此快談ニヨリテ二三日来ノ頭痛モ跡  
ナク晴レ去リ快哉云ハン方ナシ夜ノ読書ハ中々ニ効能アリシ、  
夜ニ入りテ天気粉々ノ景ニ包マル、

三月 十四日 月

天氣 善 暖

昨夜ノ雪積シテ数寸、全部ノ汚醜ヲ被リ飾レリ朝日影一シホキラ／＼ト匂ヒ出デタレバ雪見ナドトシヤレ出ル風流入モアルナンメリ、

午前ハ家ニアリテ読書シ、昼飯后ノ散歩ニトテ招魂社内ヲ漫步セリ、

夜ハ星川清松君来訪ニ時間許リ、不審ノ箇所／＼問ヒ合セ等シテ有益ニ談笑シ終リ辞シ去ル、

満天陰々ノ氣ハ白雪ト凝ツテ地ニ降り一点ノ曇リヲ止メズ、數日来胸中悶々ノ氣モ亦共々何処カへ晴レ去ル、

三月 十五日 火

天氣 善 暖

午前ハ家ニアリテ読書ニ耽リ居リシニ本郷ナル叔父上同道来リ訪レシハ斉藤鎮藏氏ナリ不意ノ上京ニ警カサル、談笑シテ午ニ至リ昼飯后ハ三人同道上野、浅草方向ニ見物ニ出掛ク、紅塵ノ内ニ歩ミ入ル余リ好キ氣持モセズ、

此夜斉藤君ハ本郷ナル松恒三君宅ニ宿ル、

飯途ハ叔父上ノ下宿ニ立寄り夕飯ヲ共ニシ九時頃迄談笑シテ辞シ歸リテ后ハ終日歩行ノ疲労ニテ何モ出来ズ

三月 十六日 水

天氣 善 暖

午前ハ一時間丈ケ昇校シ残りハ家ニ在リ、

午后斉藤氏ノ来訪ニ接シ、夕方迄四方山ノ話ニ暮シ夕飯后ハ日比谷公園、丸ノ内等散歩シ銀座街ヲ通りテ歸ル、

床ニ入りテヨリハ共ニ小学校時代ヲ回想シテ感慨極マル処ヲ知ラズ話柄ハ一段一段ニ真剣トナリ、遂ニ二時ヲ聞クニ至リテ止ム

三月 十七日 木

天気 曇 和

十一時頃ヨリ西ヶ原蚕桑講習所參觀ニ出掛ケ夕方ニ至リテ帰り、途ニ小松氏ヲ訪ル夜ハ家ニアリテ談笑ス、又氏ハ朝一番列車ニテ帰省ノ途ニ上ル筈ナレバ本沢君ニ手紙ヲ認メテ依頼ス、

三月 十八日 金

天気 雨 冷

四時半起床上野ニ至リ五時五十五分発列車ニテ出発スル斉藤君ヲ見送レリ、家ニ帰り着キテ后ハ連日ノ疲労一時ニ発シタレバ終日床中ニ休養ス夜ハ筆記物等シテ二時頃ニ至ル

三月 十九日 土

天気 雨 冷

終日終夜引籠リテ読書ス、

終日曇天時々降雨アリ寒氣稍強シ、

此度斉藤氏ノ来リ訪ル、アリ去ニシ者ヲ偲ビテ共ニ旧懷ノ情ニ耐ヘザルモノアリシニ、此日ハ朝ヨリ物淋シキ陰雨ノ降り続キテサナキダニ物憂キテ四五年前トノ日記等取り出デ、見ヤレバ運ビ兼子タル筆ノ跡迄一シホノ心ヲ引き、返ラヌ往時ヲ追想シテヤルセナキノ涙ニクレタリ、

三月 二十日 日

天気 善 和

午前ハ教会ヘハ行カデ家ニアリテ読書ス、

午后ハ散歩旁ニ森君ヲ訪レソレヨリ星川君ヲ訪レシモ不在ナリシ、夕方昼寝シ、夜ハ更クル迄読書ス

三月二十一日 月

天気 曇 和

此日ハ終日終夜家ニ在リテ読書ス、  
別ニ記スベキ程ノ事ナシ

三月二十二日 火

天気 善 和

午前ハ家ニ在リ午后ハ星川君ヲ訪レタ方迄談笑シテ帰ル、  
夜ハ家ニ在リテ読書ス

三月二十三日 水

天気 曇 暖

終日終夜家ニアリテ読書ス、  
外ニ記スベキ事モナシ、  
午飯后招魂社辺ヲ散歩ス

三月二十四日 木

天気 曇 暖

午前モ夜モ家ニアリテ読書、  
午后ハ一二時ノ午睡ス、  
実家ヨリ学資送リ来ル、

三月二十五日 金

天気 善 暖

午前ハ家ニアリテ勉強シ、

午后ハ父上ニ宛テ將ニ応ゼントシツ、アル予備試験ノ件ニ就キ委細認メテ手紙送ル、

夕方中鉢吉内君来訪、

夜ハ家ニアリテ読書、

終日晴天暖気強ク誠ニ春ノ景色ノ美ハシク匂ヘ出デタリ、夕方ヨリ曇リ初メ少シク降雨モアリシ

三月二十六日 土

天気 善 暖

終日家ニアリテ読書ス、

夜ハ仙台ナル中島君ヨリ手紙到ル、首尾ヨク卒業ノ由云ヒ送ルト共ニ此度学資ニ困窮セル身トナリ終レタル由ヲモ知ラセ送リテ一言一句同情ニ耐ヘヌモノアリ、

此一夜ハ君ニ送ルベキ手紙等認メ或ハ前途ヲ思ヒヤリ等シテ書物ハ手ニ届カズ十一時頃ニ至リ疲レハテタル頭脳ヲ以テ床ニ入ル、

三月二十七日 日

天気 善 冷

朝ハ中島君ニ関シテ父上ニ送ルベキ手紙等認メテ十一時頃ニ至リ教会ヘハ行ク事能ハズ、此手紙ニ於テ中島君ニ充分ノ同情ト助力トヲ与ヘラレン事ヲ願ヒヤレリ、

午後ハ佐々木先生ヲ訪ル、例ノ如ク居心地好ケレバ飯ルヲ忘れ、夕飯等ハ一同打交リテカゴメ／＼等シテ戯ル等無邪

氣ニ楽ミ皆シテ七時半頃辭シ歸ル

三月二十八日 月

天氣 雨 冷

午前ハ家ニアリテ歴史等繙キテ暮ス、近日歴史ノ暗記ニ苦心慘憺タルモノアルハ殆ンド想像ニ余レリ、

午後ハ工藤写真店ニ至リテ撮影シ、中島君ヨリノ依頼モアリタレバ正則英語学校ニ至リテ募集広告等見テ歸ル、

午後ハ何モ出来ズ昼寝シテ夕方ニ至ル、昨日ヨリ降り続キタル陰雨未ダ晴レデ冷氣モ加ハリ、此夕方我心ノ淋シサ云ハン方ナシ、

夜ハ家ニアリテ読書ス、

三月二十九日 火

天氣 晴 暖

午前ハ家ニアリテ読書、

午後ハ少シク散歩ス、

夜モ家ニアリテ読書、

終日晴天ナリシガ風ノアリシ為メ塵芥舞立テ心持悪シ、

三月 三十日 水

天氣 善 暖

午前ハ家ニアリテ歴史書繙ク、近来歴史ノ暗記ニ是モ苦勞ヲ覺ヘ為ニ午前ト是モ頭腦ノ鮮明ナル時ト委リ此レニ費サル、



午后例ニヨリ少シク散歩シタル后ハ家ニアリ、昨日ト異リ風モナク暖氣強シ、  
 夕方佐野為雄君来訪、夕飯后ハ森松蔵君来訪アリシガ何レモ格別ノ珍談ヲモ齎サズ、  
 夜ハ近日ニ稀ナル清鮮ノ頭腦ヲ以テ読書スルヲ得テ快哉云ハン方ナシ夜ノ更クルヲ知ラズ

三月三十一日 木

天気 曇 和

午前ハ飯塚惣一君来訪十時過迄談笑シテ去ラル、  
 午后ハ近衛聯隊ニ鈴木珪二君ヲ訪レタレ共只充分ノ会談スベキ時間ヲ得ザリキ、  
 桜島ナル上山宇平次君ヨリ手紙到リ来春再上京ノ旨云ヒ送レリ、  
 夜ハ家ニアリテ読書ス

四月 一日 金

天気 曇 和

午前ニハ鈴木珪二君来訪正午迄談笑シ昼飯后辞シ去ラル、  
 午后ハ鈴木君ヲ送り出セシ砌招魂社境内ヲ散歩シテ飯ル、  
 夜ハ家ニアリテ読書ス、  
 此日ヨリ上山君ニ読売新聞ヲ送ル事ニセリ

四月 二日 土

天気 曇 暖

此日モ終日終夜家ニ在リテ読書ス、

近日ノ暖氣増セル事夥シク桜花ノ初モ数日ニ迫レリ

四月 三日 日 神武天皇祭 天氣 曇 暖

午前ハ教会ニ至ル、「希望ノ生活」ト題シテ説キ出サレタル先生ノ説教ハ中々ノ感化ヲ与ヘラレタリ、  
 午后ハ疲労ヲ感ジタルヲ以テ夕方迄昼寝ス、  
 夕方ハ星川君ヲ訪レ八時ヨリハ本郷会堂ニテ開カルベキ明道会例会ニ出席十時帰家ス

四月 四日 月 天氣 雨 和

午前ハ家ニ在リテ読書セリ十時過ギニ至リ水間位彦君来訪アリ氏ハ此度愈々郵便電信学校ヲ卒業セラレ新任ヲ負フ  
 テ京都ニ向ハル、事トテ袂別ニトテ来ラレシナリ、久シ振リノ会合ナルヲ以テ快談時ノ移ルヲ知ラザルノ有様ニテ午  
 后二時頃ニ至リテ辞シ去ラル、  
 夜ハ家ニアリテ読書ス

四月 五日 火 天氣 雨 和

朝風呂等ニ行シ為メカ午前ハ充分ニ読書スルヲ得ズ終日不快ノ日ニ暮セリ、  
 午后モ夜モ例ノ如ク読書ス、  
 昨日ヨリ引続キ雨空ニテ心持宜シカラズ

四月 六日 水 天気 善 暖

終日晴天暖氣モ加ハリ益々春景色ヲ添フ、

午前ハ家ニアリテ読書ス、

午飯后ハ招魂社ノ辺リニ散歩ヲ試ムル事例ノ如シ、

夕方ニハ金田靖彦君来訪アリ、

夜モ家ニアリ此頃余リノ努力ニヤ精氣ノ欠乏ヲ覺エテ不快サ云ハン方ナシ、我敵ハ将ニ目前ニ迫リ来ルニ斯テハト思ヒ返ス処ニ自ラ我身ノ自由ナラヌヲ憾クノミ、

四月 七日 木 天気 善 暖

午前ハ家ニアリ、

今日モ亦招魂社ニ至レルニ桜モアト三分通りノ開花ヲ見中々ノ景色ナリシ、

午后ハ家ニアリ、殊ニ夜ハ寢ルヲ知ラザル有様、

四月 八日 金 天気 善 暖

午前ハ家ニ在リ、午后ハ少シク昼寢ス、

午飯后招魂社境内ニ散歩ス桜花将ニ半ヲ開テ時ナル霞ヲタナ引カセタリ、

夜ハ家ニ在リテ夜更クル迄読書ス

四月 九日 土

天気 善 暖

昨日ニ同ジ、少シク風アリ為メニ紅塵ノ飛ビ立ルノミナラズ、アタラ桜花モ粉々ノ白雪ト散リ去ル景色アハレニユカシ、

夜ハ青戸藤吉君来訪十時頃迄宗教哲学等ニ関セル有益ナル議論ヲ闘ハシタリ、  
近日ノ暖氣ハ格別ニテ時ニ汗ノ出ヅル程ナリ

四月 十日 日

天気 善 暖

朝横田内蔵之丞君来訪氏ハ一二年前ヨリ郷里ニ在リシヲ此度再ビ修学ニ上ラレタルナリ、同道本郷会堂ニ至ル本日ハ我女性観ト題シテ久遠女性ノ発掘ニ就テ説カル、例ノ如ク大ナル「インスピレーション」ヲ与ヘラル、横田氏モ頗ル感動セラレ劇ニ海老名先生崇拜トナル、

午后ハ佐野為雄君来訪文学談ニ時ヲ移シテ夕刻ニ至ル、

夜ハ家ニアリテ読書

四月 十一日 月

天気 善 暖

本日モ終日終夜家ニアリテ読書ス、

将ニ応ゼントスル予備試験モ追々近キタレバ心中ノ忙ハレサ云ハン方ナケレドモ此頃ハ懶ク精氣ノ欠乏ヲ覺ヘ憂愁日ヲ送ルナリ

四月 十二日 火

天気 曇 暖

午前ハ家ニアリテ読書セシモ充分ナル能ハズシテ不満ヤル方ナシ、午后ハ少シク昼寝シタル后夕方迄英文法等調ブ、前方見ヤレバ強敵ハ早迫リテ数旬ノ内ニ立テリ、内ニ顧レバ我武備未ダ薄弱ニシテ到底勇マシク戦ヒ得ベクモアラズ、根氣ハ連日連夜ノ努力ニヨリテ懶ク衰ヘ初メタリ、此時我胸中何ンゾ平然タルヲ得ベキ宜ナリ静カニ上帝ニ交ルベキ好時間ヲ得ザル事ヤ、

四月 十三日 水

天気 曇 暖

午前ハ家アリテ読書シ

午后ハ昼寝シ、夜ハ寝ルヲ敢テセズシテ

夜ヲ徹ス、

四月 十四日 木

天気 曇 和

昨来ノ努力ニ頭腦ノ疲労ヲ覚ヘタレバ朝飯后ハ招魂社内ヲ散歩ス、

午后モ夜モ家ニアリテ汲々タリ、

四月 十五日 金

天気 曇 和

午前ハ家ニアリテ数学等勉強シ、午飯后ハ少シク散歩シタル后夕方迄昼寝シ、

夜ニ入りテ再ビ机ニ向ヒテヨリハ夜ヲ徹シテ読書シ頭腦モ充分ニ活動シテ快感ヲ覚ユ、

夜ニ入りテ冷氣強ク数日前ノ暖氣ニ比シテハ甚ダシキ變化ナリ

四月 十六日 土

天氣 雨 冷

昨夜ヨリノ讀書引續キテ正午ニ入ル、

朝ニ至リテハ風雨ト變ジ冷氣加ハレリ、

午后少シク昼寢セルノミ夜モ更クル迄燈下ニ親ミス、

四月 十七日 日

天氣 善 暖

朝ハ家ニアリテ讀書シ、十時頃ヨリハ本郷会堂ニ至ル事例ノ如シ、

午后ハ鈴木珪ニ君來訪、

夜ハ家ニアリテ讀書ス

四月 十八日 月

天氣 曇 和

終日終夜家ニ引籠リテ勉強ス、

只夕飯后散歩ノ途森松藏君ニ立寄レルノミ、

四月 十九日 火

天氣 雨 和

終日終夜陰雨降り続キ外出スルヲ得ズ、

終日終夜引籠リテ読書シ夜モ更クルニ至レリ、  
訪レ来テ寂莫ヲ破ルノ友ナケレバ氣ハ自ラ内ニ沈ミツ、

四月 二十日 水

天気 雨 和

昨来ノ雨今日モ晴レズ、引続キテノ籠居ニハ神身共ニ疲勞セリ、  
昨日ノ夕方余ニツレドナルマ、家婦達ト茶話ス、「アナタ始終引ッ籠ッテ許リオイデッ行人ノ様デゴザル」ト云ハ  
レヌ

四月 二十一日 木

天気 善 暖

一昨来ノ強雨始メテ晴レ去リ陽氣モ一変シタレバ内ナル元氣モ亦旺盛ナリ、久シ振りニテ散歩ヲ試ム

四月 二十二日 金

天気 善 暖

午前ハ家ニアリ午飯后ト夕飯后ト散歩セルノミ始終引籠リテ読書ス、昨来天氣引続キテ心持好シ  
母上ヨリ手紙到リ学資等ヲモ贈リ来ル

四月 二十三日 土

天気 善 暖

例ニヨッテ例ノ如ク終日ノ籠城別ニ記スベキ程ノ事モナシ

四月二十四日 日

天気 善 暖

海老名先生不在ノ模様ナレバ教会ニモ行カズ、午前中八家ニアリテ読書ス、  
午后ハ戸沢正夫君来訪

夜ハ読書ニモ倦ミタレバ星川清松君訪レ四方山ノ話ヨリ花ガ咲キ終夜語り更シテ帰ルヲ忘レ二時頃ニ至リテ俱ニ同ジ  
ク床ニ入ル、

南風ノ出デタル為メ、紅塵飛ビ狂ヒテ心持ノ悪シサ云ハン方ナシ

四月二十五日 月

天気 曇 暖

星川君ノ許ヨリハ七時頃飯ル、

後ハ夜ニアリテ読書ス、夜ハ睡魔ノ襲フ処トナリテ早ク床ニ入ル、

昨来ノ風止マズ心持益々不良

四月二十六日 火

天気 曇 暖

専門学校入学者検定試験ノ広告出ヅ、コレゾ予テヨリ待テ構ヘタルナリ、  
午前八家ニアリテ読書セシモ午飯后直チニ歩ヲ運ビテ右試験場ナル第四中学校ニ出リテ手続等問合ハス、予テヨリ覚  
悟ハシツ、モ今更ニ其艱難ナルニ驚キヌサレド敵ニ会ヒテ退クハ我本意ニアラ子バイデヤ磨キ上ゲシ劍ヲ振ヒ先ヅハ  
当ツテ碎ケ見ンカ、乃チ父上ニ手紙ヲ宛テ受験料等請求ス、

風益々烈シ、紅塵満都ヲ覆フ



四月二十七日 水

天気 雨 和

終日別ニ記スベキ程ノ事モナシ、  
夜ハ充分ニ讀書スルヲ得ザリシ、

数日以来吹キ続タル心持悪シキ風止ミテ細雨ソボ／＼振り出デヌ

四月二十八日 木

天気 善 暖

此日ハヨク讀書セルノ日ナリ、

ツラ／＼故郷ノ懐カシキ両親ヲ思ヒ浮ベ此ヨリ彼ヘト思ヒノ舟ヲ漂ハシ一日モ早く身ヲ立テ業ヲ成サバヤト念ジ初ム  
ル切ナルモノアリ、

夜モ家ニアリテ更クル迄、

四月二十九日 金

天気 善 暖

朝ハ六時ニ床ヲ出テ、午前中ハ家ニアリテ最モ頭腦ヲ要スル数学等自習シ、天気好カランニハ午飯后一時間位ヲ期シ  
招魂社辺ニ歩ヲ運ビ午后ハ再ビ引籠リテ物理、化学等ノ諸学課ヲ自習シ、夕方再ビ散歩シテ后ハ深夜ニ至ル迄歴史ノ  
数ヲ繙ク事今日此頃ノ習ナリ

四月 三十日 土

天気 曇 暖

今日モ亦昨日ノ如クシツ。サレド連日ノ箴城主義ハ神身ノ疲労ヲ来タシ、夜十時頃ニ至レバ身モ魂モ綿ノ如ク煮ラレ

タル如ク何時ノ間トモ知ラズ床中ニ在ルヲ例トシ翌朝ニ至リテ昨夜ノ意志薄弱ヲ辱ヅルノミ、

五月 一日 日

天気 雨 和

終日雨天、

吾敵ハ將ニ前ニアリ、吾武備ハ未ダ全カラザル事甚ダシ、顧ミテ意氣消沈セザラントスルモ得ベキカ、即チ海老名先生ノ口吻ニ接スル事サヘモ心進マズナリハテ家ニ在リテ数学ノ自習等始メシモ何ンゾ要領ヲ得ベケン只半日——安息日ノ貴重ナル半日ハ有耶無耶ノ内ニ過ギツ、

嗚呼我此頃悲シキ思、誰ニカ分タン、

嗚呼我内ニ沈メル氣如何ニシテカ起サン、

五月 二日 月

天気 雨 和

此日モ例ノ如ク別ニ記スベキ程ノ事モナシ、

五月 三日 火

天気 善 暖

此日午后ハ半込ナル第四中学校ニ至リテ専門学校入学試験定ノ受験手續ヲ終ヘタリ、夕方招魂社境内ヲ逍遙セリ、

夜ハ遅ク迄、

五月 四日 水  
天氣 善 暖  
別ニ記ス事ナシ、

五月 五日 木  
天氣 善 暖  
別ニ記スベキ程ノ事ナシ、  
本日ヨリ招魂社祭礼ノ事トテ近辺ノ繁盛一方ナラズ

五月 六日 金  
天氣 善 暖  
午前ハ例ニヨリ家ニアリテ数学等調ブ、  
午頃ヨリ鈴木氏來訪午飯后ハ日比谷公園ニ遊ブ、恰杜鵑花ノ時期トテ混雜ヲ極メタリ、  
夜ハ何モ出来ヅ、甚ダ不本意ニテ床ニ入ル

五月 七日 土  
天氣 善 暖  
午前モ午后モ家ニアリテ讀書セシガ夕方ニ至リテ疲勞ヲ感ズル事甚ダシク意氣消沈シテ又揚ラズ

五月 八日 日  
天氣 善 暖  
此日モ教会ニモ行カツ家ニ引籠ル、  
中島悌治君ヨリ手紙來ル、之レニ返事認ム、

午后ハ家ニアリテ読書シ夜モ始メタレ共精氣続カズ意氣阻喪シテ床ニ入ル

五月 九日 月

天氣 善 暖

終日閉ヂ籠リテ読書ス、

五月 十日 火

天氣 善 暖

此日ノ夕方ヨリハ本郷ナル叔父上ヲ訪レ、九時頃迄談笑シテ飯ル、脚氣ノ再發セル為メ近日中ニ帰郷スベシトノ事ナ  
リシ

五月 十一日 水

天氣 善 暖

午后ハ昼寢シ夜ハ遅ク迄

五月 十二日 木

天氣 善 暖

午前ハ家ニアリテ読書、午后モ、夜ハ早ク床ニ入ル

五月 十三日 金

天氣 善 暖

午前中ハ家ニアリテ読書ス、

予テヨリ手紙ニテ上京ノ得失ヲ議論シ合ヒシ中島君ハ遂ニ意ヲ決シ、不意ニ上京シテ十一時頃来リ訪ハル、

二時頃迄面白ク愉快ニ有益ニ久シ振リノ会談トシテ誠ニ応ハシキ会話ナリシ、  
午後モ夜モ引ッ籠モリ、

五月 十四日 土

天気 雨 和

午前ハ家ニアリテ読書シ、午后ハ少シク昼寝シテ元氣ヲ養ヒ夜モ家ニ在リ、  
本郷ノ叔父上ヨリ一兩日中ニ帰省スベキ旨云ヒ送ル、

五月 十五日 日

天気

十時頃本郷ナル叔父上ヲ訪レシモ已ニ出発ノ后ナリシ

五月 十六日 月

天気 善 暖

此日ヨリ専門学校入学者ノ試験検定開始サル、  
先ヅ初陣ノ武功ヲ望ミシモ甲斐ナク数学ノ為メニハ数々ニ失敗シ、日頃ノ修養ノ足ラザリシヲ悔イシモ詮ナシ、  
午后ノ漢文購読ニハ可ナリノ成功ナリシ、

五月 十七日 火

天気 善 暖

此日ノ英語科試験ニハ思ヒ掛ケナキ成功ヲ得タリ、  
最難課目ニ成功シ、年来ノ苦心水泡ニ帰セザリシヲ喜ビ雀躍禁ズル能ハズ、

五月 十八日 水

天気 曇 和

此日ノ地理、地文科ニ於テハ可ナリ出来、国文購読モ此程六ヶ敷カラズ只文法ノ修養ノ欠乏ヲ感ジヌ、  
午后ノ体操ニハ何レモ滑稽ヲ極ム、

五月 十九日 木

天気 曇 和

青山ニテ得タル修養宜シカラズ本日ノ博物試験ニハ一度モ下読セザル割ニハ可ナリノ成功ナリシ

五月 二十日 金

天気 善 暖

歴史科ニアリテハ見事ノ成功ナリシ、

数学科ニ於テハ前日ノ失敗ヲ取り戻サン予定ナリシモ又々打破ラレ益々弱氣ヲ感ジヌ、

午后ハ図画ノ試験アリ

五月二十一日 土

天気 善 暖

本日ヲ以テ本試験ノ終結ヲ告ゲントス、物理ニ於テハ見事ノ成功ナリシモ化学科ニ於テハ余リ面白カラズ、午后ハ会  
話、書取等ノ試験アリテ全ク終局ス、

夕方、鈴木珪二君ノ弟ノ君来訪此一夜ヲ宿ル事トセラル、中島君来訪程々有益ナル談話ノ末夜ヲ更カシテ夜ニ床ニ入  
ル三頭並ベテ、

五月二十二日 日

天気 善 暖

朝鈴木桂二君来訪十一時頃ヨリハ外出シテ昼飯ヲ共ニシ午后ハ少シク散歩ス、  
夕方ヨリ星川君モ来ル、恰モ大坂君ノ帰省ヲ上野ニ送ラントス即チ共ニ俱ニ至リテ上野ニ租送ス

五月二十三日 月

天気 善 和

終日別ニ記スベキ程ノ事モナシ、  
方々ニ手紙ヲ認ム

五月二十四日 火

天気 善 暖

此日ハ非常ノ暖氣ニテ初メテ単衣ヲ用ユ、  
午后ヨリハ佐々木先生ヲ訪レ、例ノ如ク樋岡徹君ト談笑シテ夕方ニ及ビ夕飯ヲ饗セラレテ飯ル

五月二十五日 水

天気 雨 和

終日終夜雨天、

十時過ギシ頃予テ帰京中ナル服部君来訪聞ケバ大志ヲ齎シテ北海道ニ到ルノ途ナリト、夕方迄談笑シ、出デ、近傍ノ  
飲食店ニテ晚餐ヲ共ニシテ後訣別ス、

夜ニハ佐野為雄君来訪、

五月二十六日 木

天気 曇 和

八時過ぎシ頃中島君来訪、心ノ打チ合ヒタル仲ハ亦格別ニテ初メハ学課ニ関セル討議ニテ持切りノ有様ナリシガ話柄ハ漸ク故郷ニ転ジ旧ヲ想ヒテ感慨極マリナカリキ、竹馬ノ友斯クテコソ

午后ヨリハ本郷ナル波多野清太郎君ヲ訪レ茲ニモ数学等ノ有益ナル考究アリ夕方に至リテ帰ル、

五月二十七日 金

天気 曇 和

九時頃ヨリ麻布ニ向ヒ折下様ヲ訪レコ、ニ昼飯ヲ饗セラレ次デ古瀬様ヲ訪レ足ヲ転ジテ三田ニ山崎純氏ヲ訪レ夜ニ至リテ之レヲ辞シ、麻布桜田町ナル吉高成美氏ヲ訪レ遅ク迄茶話シ遂ニハ宿ル事トシヌ、

五月二十八日 土

天気 雨 和

九時頃ハ辞シ去リヌ、家ニ入りテヨリハ只何トハナシ疲労ヲ感ゼシヲ以テ暫シ仮寝セシガ金田靖彦君ノ来訪ニヨリテ夢ヲ破ラル、

午后ニハ星川清松、井上伸一君ノ二君来訪有益ニ愉快ニ談笑論議シテ夕方ニ至ル、

夜ハ井上常松君ト本沢一称君トニ久シ振リニテ手紙ヲ認ム

五月二十九日 日

天気 善 暖

此日ハ久シ振リニテ海老名先生ノ声咳ニ接シテ澆刺タル元氣ヲ得ラルル事ト待チ居リシニ留守ノ由新聞紙ニテ知り落胆セリ



午后ハ星川君ヲ訪レ次デ上野ニ散歩シヌ

五月 三十日 月

天気 曇 和

此日ハ久シ振リニテ英語ノ読本ヲ繙ク

五月三十一日 火

天気 善 暖

午前ハ家ニアリテ読書、

午后ハ正則予備学校ニ至リテ時間表等写シ来ル、

フトセル事ヨリ再び引籠リテ自習ノミニテヤリ通サンカトモ思ヒヌ、

夕方麹町元園町ニ中島悌治君ヲ訪レシモ留守ナリキ、

夜モ少シク数学等自習ス

六月 一日 水

天気 善 暖

午前ハ引籠リ数学等自習ス、

午飯ヲ終ヘテ桐一葉ナド繙キ余リニ感ジ入りシケ処ハ音読ナシ居タル処ニ中島君ト清野君トノ来訪アリ、次デ本郷ナ

ル波多野君ヲモ誘ヒ出シテ上野停車場ニ新来ノ安喰正夫君ト草賀君トヲ迎ヒニ出掛ケヌ、五時頃ニハ二君ヲ旭館ナル

波多野君ノ居室ニ誘ヒ入レテ快談沸クガ如シ

本沢君ヨリ手紙到リ試験ノ不結果ヲ慰メラル、

夜モ数学ヲ、

六月 二日 木

天気 善 暖

此頃ノ課程ニ準ジ、午前ハ数学ヲ、  
午后ハ為セル事モナク、夜ハ読書

六月 三日 金

天気 善 暖

七時起床午前ハ家ニアリテ数学ヲ、  
午后ハ昼寝シテ四時頃ニ至ル、

此頃ハ朝夕ノ起臥ヨリ読書如キニ至ル迄期スル処ニ応ゼズ、内ニハ疼キシ情火ノ焰、時ヲ得テ我身一ツハアハヤ焼キ  
尽サシズ有様、コレヤアレヤノ煩悶苦心ト不平自棄ノ心ト相和シテ悲シサ極ナク、身モ魂モアラヌ程ノ悲觀ニ陥リ  
我身ヲ持テ余シテハ、ソコトモナク道ヒ出テ不忍池畔ヲ廻リテ上野山ノ小暗キ森ニ歩ヲ運ビ暫シ打チ徨フ程ニ氣漸ク  
平ニナリニタレバ家ニ飯リテ直ニ臥床ニ入リス、

六月 四日 土

天気 善 暖

七時起床、午前ハ数学等勉強シ、  
午后モ家ニアリテ読書、夜ハ十時頃ニ至リテ床ニ入ル、  
此頃ハアツサ日々ニ加ハリ身ノ疲労日々ニ甚ダシ、

井上常松君ヨリ手紙至リ共ニ後日ノ大成ヲ期シテ勉強スベシト云ヒ送ラル、興奮サレタル事甚シ、

六月 五日 日

天気 善 暖

朝鈴木桂二君来訪セラレシガ十時頃ヨリハ同氏ヲ残シテ久シ振リニ本郷教会ニ至ル、

午后ハ家ニアリテ読書シ、

夜ハ七時ヨリ再ビ本郷教会ニ至ル加藤直士氏ノ演説アリキ、

桜島ノ上山宇平次君ヨリ手紙到ル

六月 六日 月

天気 善 暖

午前ハ家ニアリテ読書、

午后モ夜モ例ニヨリテ例ノ如シ

六月 七日 火

天気 善 暑

五体疲労覚ユル事甚ダシク終日格別ノ為ス事モナク打チ過ギ只夜ニ入リテ少シク読書ス

六月 八日 水

天気 善 暑

不用トナレル書籍等ヲ一纏メトシ通運便ニ托シ、新庄令迄送り出セリ、

昨来ノ疲労未ダ愈セス午前モ午後モ為ス事ナクテ過ギ夕方招魂社辺ヲ散歩シテ販リ元氣ヲ得テ読書ヲ始メヌ

六月 九日 木

天氣 善 暑

午前ハ家ニ在リテ数学等自習セルモ思ノ俣ニモ行カズ、午后モ家ニアリテ愉快ニ読書ス、

夜ハ本郷会堂ニ至ル、先生ノ聖書講義ニ次イデ祈祷会開カレニ三氏ノ感話アリ、九時頃散会シ、家ニ販リテヨリハ新人等抽キ出シテ夜ヲ更カシツ、日頃冷エ来リニシ我心モ茲ニ至リテ何トハ知ラズ鼓舞サレ出デヌ、

願フラクハ靈ナル話ケル神ノ内ニ永遠ノ發達ヲ為シ、神知靈覺ノ智能ハ日々ニ開發サレ、清キ心情ハ我神ノ美ト投ジテ内ナル人ノ歲月ト共ニ新タナラン事ヲ、

六月 十日 金

天氣 善 暑

午前ハ家ニアリテ数学等調べ、午后ハ少シク昼寢シタル后夕方ヨリ散歩ニ出掛ケ不忍池畔ニテ中鉢吉内君ト遭ヒ氏ノ寓居ニ販リ暫ク談笑セル後辭シ去リ、星川君ニ立寄り九時頃ニ至リテ帰り、英語等復習シテ夜ヲ更カシ一時頃ニ至リテ床ニ入りヌ

六月 十一日 土

天氣 雨 和

風邪ノ氣味アリテ充分ニ読書スルノ根氣モ出デザルニヨリ午飯ノ後ハ直ニ床ニ入りテ夕方迄休養ス、夜ハ海老名師ノ説教集ヲ繙キテ靜ニ思フ傾ク折シモ細雨シヨボ／＼降り出デ、靜寂極リナシ、感極リテハ靜ニ端座シテ心ヨリノ祈ヲ捧クレバ此頃ニナク切ニ祈ラレテ身モ魂モ已ニ此塵ノ世ノ物ナラヌベク思ハレヌ

六月 十二日 日

天氣 曇 和

朝ノ程ハ家ニアリテ讀書シ、十時ヨリハ本郷教会ニ至リテ海老名先生ノ声咳ニ触シ例ノ如ク大ナル力ヲ得ヌ、午后ハ鈴木君來訪例ニヨリ下ラヌ談話ニテ夕方ニ至レリ、夕方ヨリ散歩ニ出掛ケ龍岡町ノ中鉢君、星川君等ノ許ニテ談笑シテ九時飯ル、

十二時頃迄英辭書等繙キテ后床ニ入りシモ神氣余リニ興奮シテ睡リ付ケズ連想綿々極マル処ヲ知ラズ余リニ愉快ナル俣ニ起キ出テ海老名先生ノ説教集中ノ「フィヒテ」伝「シュライエルマツヘル」伝等讀ミモテ行クニ歎興限リナシ、三時ヲ聞キテ床ニ入ル

六月 十三日 月

天氣 善 暖

午前ハ家ニアリテ数学書ヲ繙キ、

午飯后ハ少シク散策ヲ試ミ

午后ハ再ビ引籠リテ国語、漢文等ノ書類ニ親ミ、夕飯后モ一時間位ノ散歩、

夜ハ英書ノ勉強、

此レ蓋シ余ガ数旬以來規定セル日課ナリ、サレドモ薄志弱行ノ悲シサ、所期ニ反スル事多ク自ラ慙愧ニ耐ヘザル処ナリ

六月 十四日 火

天氣 善 暖

数学書繙キシモ頭痛ヲ感ジ初メ幾程モナクシテ放置シ、次デ昼飯ヲ終ヘテヨリハ充分ノ散歩ヲ試ミテ快活ノ氣ヲ養ヒ来ラントシ將ニ出デントスルニ当リ驟雨ニ遭ヒテ思ヒ止ミヌ、雨ハ激シク降り出デ電サヘ加ハリ近來ニナキ雷雨トナ

リハテタリ、

点滴ヲ耳ニシツ、横タハリ、シバシ午睡ヲ貪ラントセシモ頭痛烈シクテ睡リ付ク能ハザル程ニ中島氏ノ来訪アリ、同道旭館ニ安喰君ヲ訪レタ方ニ至ル、

夜ハ中島君ヲ訪レ葛杖ヲ曳ヒテ山王山、愛宕山等散歩シテ十時頃飯家

六月 十五日 水

天気 善 暖

頭痛殆全癒ス、終日引篋リテ読書

六月 十六日 木

天気 善 暑

別ニ記スベキ事モナシ、

意氣消沈シテ身モ魂モ我物ニシテ我意ノ如ク為ス能ズ

六月 十七日 金

天気 善 暑

午前ハ家ニアリテ読書、午后ハ散歩ニ出デ正則、国民両校ニ至リテ夏期講習ノ掲示板等見テ来ヌ、夜モ家ニアリテ読書、

此頃ハ終日終夜家ニアリテ運動ノ時間ナク為メニ快活ノ氣ヲ失ヒ、意氣消沈シテ日ニ薄志弱行ノ所為ノミ重リ行キ自ラ悶々ノ情ニ耐ヘズ、一定ノ規則立ル学校生活ヲ望ム事切ナリ

六月 十八日 土

天気 雨 和

午前ハ格別ノ事モ為シ得ジ英語読本等復習セルノミ、午后ハ家ニアリテ午睡ヲ貪ル、  
夜ハ家ニアリテ心持ヨク読書セリ、

午前ハ曇天午后ヨリハ雨天トナリ風サヘ加ハリ近日ニ無キ不良ノ天気トナリヌ

六月 十九日 日

天気 曇 暖

五時起床九時頃迄読書

海老名先生ハ留守ノ由ニテ本日ハ阿部磯雄先生ノ説教アル筈ナレバトテ九時半頃ヨリ出掛ントセル処ニ星川清松君来  
訪昼頃迄数学ノ疑問等質シ合ハセタリ、氏ノ将ニ応ゼントスル高等学校ノ試験モ近キニアレバニヤ顔色蒼然日夜ノ努  
力思ヒヤラレテアハレ深シ、午后ハ体育会運動場ニ至リテ器械体操等シテ畝ル、精気爽快、  
夜ハ家ニアリテ読書

六月 二十日 月

天気 曇 暖

午前ハ家ニアリテ読書ス

午后三時頃桜島ノ上山宇平次君遙々上京来訪セラル袂別后始一ヶ年ヲ経タレバ積ル話ハ尽キモセズ夜ノ九時頃ニ至リ  
辞シテ飯田町ヨリ汽車ニテ青山ニ畝ラル京都ナル水間位彦君ニ充テタル手紙ヲ認メテ夜ヲ更カセリ

六月 二十一日 火

天気 曇 暖

午前三時ニ至リテ床ニ入リシモ容易ニ睡リ付ズ程々ナル空想ニ耽リ居ル程ニ東窓早クモ白ミ渡リス、  
午前八家ニアリテ読書、曇天ニテ余リノ鬱陶シサニ耐ヘズ、午飯后ハ上野ニ散歩シ器械体操等シテ二時頃飯ル、

六月二十二日 水

天気 曇 暖

朝飯田町ヨリ汽車ニテ青山ニ至リ上山君ノ宿ヲ訪レ十時頃ヨリハ山岡君ヲ訪レ久シ振リニテ旧誼ヲ温メ帰途ニハ高野  
寛君ノ許ニテ昼餉ヲ饗セラル、

三時頃帰家セシニ上山、鈴木二氏已ニ待チ居ラル、夕方ニハ共ニ出テ晚餐ヲ俱ニス、  
夜ハ家ニアリテ父上ニ送ルベキ手紙ヲ認ム

六月二十三日 木

天気 曇 暖

午前八家ニアリテ読書、

午后ハ上山君来訪次デ氏ノ同郷人來訪乃チ三人出デ、近所ノ料理店ニ至リ夕餉ヲ俱ニシ、満腹ヲ抱ヘテ日比谷公園ニ  
杖ヲ曳キ涼風ニ面ヲ払ハセ、歩ヲ転ジテハ新橋ニ出デ銀座ノ夜店等ヒヤカシテ飯リハ十一時頃ナリシ、上山氏ト枕ヲ  
並ベ一ツ大ニ談ジャウト横ニナリシ迄ハ好カリシガ余リニ長ク歩イタ疲レニテ間モナクグウ／＼

六月二十四日 金

天気 雨 暖

午前ハ上山君ト四方山話ニテ半日暮シ、昼餉后上山君ハ訪問ニトテ外出サレ、残りタル余ハ折フシ通り掛レル花屋ヲ  
呼ビ止メ黄菊ノ一二本花瓶ニ挿シ立テ居ル処ニ中島君來訪、試験ノ近タル為メニヤ顔色蒼然タリ、一二時許リ有益ニ



面白キ談話シテ帰り行カレヌ、  
夜ハ家ニアリテ読書

六月二十五日 土

天気 曇 暖

終日家ニアリシモ曇天ニテ鬱陶シク不快サ限リナク格別為ス事モナク打チ過ギ、夕方ニ至リテハ余リニ気分悪シキヲ以テ日比谷公園ニ散歩シ八時頃ニ至リテ飯ル、氣モ晴レ／＼ト書物等繙キ居タルニ上山君帰り来ラレ君ガ持チ帰レル葡萄酒等味ヒテ氣焰モ昂ジ十二時ニ至ル

六月二十六日 日

天気 曇 暑

朝、新橋停車場ニ上山君ヲ見送り、直チニ電車ニテ本郷教会ニ至ル、先生ハ家庭ノ宗教ト題シテ趣味アル教訓ヲ垂ラル、

午后ハ新庄義友会ノ例会ニ出席、本日ハ松沢光茂君渡米ノ送別会ヲモ兼ヌ、帰途ハ細谷軍医ニ招カレ近所ナル洋食店ニテ夕餉ス、ソレヨリ帰途ハ星川君ヲ訪ル、

夜ハ家ニアリテ読書二三時間、暑サ甚シケレド微風アリ朧月アリ

六月二十七日 月

天気 善 暑

暑氣強クシテ身体鈍ク読書意ノ如クナラズ、  
為替ノ件ニ付キ実家ニ打電ス、

午后星川君ノ来訪アリ、

夕餉後隣室ノ諸氏ト一時間許リ雑談ニテ神氣爽快トナル、

明月空ニ掛リテ清涼云ハン方ナシ

六月二十八日 火

天気 善 暑

午前ハ家ニアリテ読書、

午后昼寝、

夜モ読書

時候ノ為ニヤ根氣続カズシテ不満ニ耐ヘズ

六月二十九日 水

天気 善 暑

午前ハ家ニアリテ読書

午后ハ夕方迄午睡

夜ハ十二時ニ至ル迄読書、

朧月窓ニ影ジテ風勢捨テ難キモノアリ、

六月 三十日 木

天気 善 暑

五時半起床

午前八家ニアリテ読書、

午後八午睡

夜ハ更ク迄読書、

父上ヨリ手紙至ル之レニ返事ヲ認ム、

七月 一日 金

天気 善 暑

別ニ記スベキ程ノ事モナク例ニヨリテ例ノ如シ

七月 二日 土

天気 善 暑

午前中ハ家ニアリテ読書

午後ヨリハ府下世田谷村ニ同郷ノ軍医細谷氏ヲ訪ル、留守中ナリシガ暫シ談話シテ居ル内帰り来ラル、格別面白キ話  
モナカリシガ涼風通フ一室ニテタ餉ヲ饗セラレシハ心持ヨカリシ、八時頃ニ至リ辞シ去ラントセルニ俾等雇ヒ呉レ  
ヌ、途ニ青山南町ニ大家準蔵氏ヲ訪レシニ久シク興津地方ニ転地療養中ノ本間忠恕君モ来リ会シ談笑思ハズ夜ヲ更カ  
シ雨サヘ降り出デタレバ茲ニ宿ル、

七月 三日 日

天気 曇 暑

引キ止メラレ朝飯ヲ饗セラレテ帰りタレバ教会ノ説教ニハ間ニ合ハザリシ、「戦争美」等云フ題ナリシニヨリ聞カマ  
ホシカリシニ、夕方ニハ本間忠恕君来訪種々有益ナル信仰談ノ后夕餉ヲ終ヘ招魂社内ヲ散歩シテコ、ニ別ル、本間君

二別レテヨリハ歩ヲ運ビテ本郷会堂ニ至リ海老名先生ノ説教ニ耳傾ケ其温顔ニ接シ、云ヒ得ヌ慰ヲ得テ帰リシハ十時頃、

七月 四日 月

天気 善 暑

余ニ衰弱シテ讀書意ノ如クナラズ、中学校ヘノ入学試験ハ九月ニ至リテ受ケンカ、サラバ帰国シテ後ニ備ヲ為スヲ得ベケレ共折角ノ休暇ヲ長閑ニ送ルヲ得ズ、然ラバ本月末ニセンカ此身神ノ衰弱ト氣候ノ不適トヲ如何ニセン、昼ハ暑サニ攻メラレ、夜ハ蚊軍ノ襲フ処トナル、

七月 五日 火

天気 善 暑

此日ヨリ午睡ヲ廢セントス、午前中ハ時々睡魔ノ襲フ処トナリ、午后ハ暑サニ苦シメラレ夜ニ至リ涼風徐ニ来ルノ時ニ合ヒ漸ク蘇生ノ思ヒヲ為セバ直チニシテ蚊軍ノ来襲始マル、併シ割合ニ根氣モ続キテ先ヅ満足セラル、

七月 六日 水

天気 善 暑

午前六時ヨリ夜ノ十二時頃迄讀書ヲ続ケヌ、能クモ根氣ノ尽キザリケリ、夜ニ至リ漸ク涼シク我、人、蘇生ノ思ヒヲ為シテ讀書ヲ始メニシ上手デモナキ歌売リノ奴何時迄モド鳴リホトホトセシ、后ニ引続キテのみとりノ広告……余リニ癩ニ障リシト見ヘ隣室ノ人大音声挙ゲテ追ヒ返セシハ中々目覺シクゾアリケル

七月 七日 木 天気 善 暑

午前モ午后モ引籠リテ読書、根氣続テ満足ニ感ズ、

夕餉后ハ杖ヲ曳テ本郷ニ至リ旭館ニ波多野安喰両氏ヲ訪フ、安喰氏ハ高商ノ受験ニ敗北セリトテ落胆ノ体、両氏今ヤ口輪ヲ揃ヘテ一高ノ受験ニトテ出陣セントシ、意氣將ニ四滴ヲ吞マントス、羨マシイ哉、  
数学ノ難問提出サレ何レモ解キ兼子三人ノ頭脳ハ散々ニ悩マサレヌ

七月 八日 金 天気 善 暑

終日籠城別ニ記スベキ程ノ事モナシ

七月 九日 土 天気 雨 和

昼ノ中ハ引籠リテ読書

夜ハ青戸藤吉君來訪、同氏トノ會話ハイツモナガラワカボカシテ面白クナシ、  
一昨日ノ難問ニ就キ波多野君ヨリ面白キはがき届リ、直チニ返書ヲ送リヤル、

七月 十日 日 天気 雨 和

海老名先生ノ説教ナカリシヲ以テ會堂ヘハ行カス、終日家ニ在リシモ打チ続ケル雨天ニテ氣分悪シク意氣消沈シテ  
散々ナル一日何ノ為ス事モナシ

七月 十一日 月

天氣 雨 和

午前中ハ家ニアリテ読書、一昨来ノ風雨モ午頃ニ至リテ止ム、午后ハ鈴木珪二君ヲ其弟君ト共ニ兵營ニ訪フ、氏ハ近衛臨時衛生隊付トナリテ近日出陣トノ事、此日初メテ兵營内ノ酒保ナルモノヲ伺フ、夜ハ家ニアリテ読書、十時頃ヨリハ再び雨トナリ其雨モゴツ／＼降り出デタレバ向室等ノ下ラヌ談話ハ耳ニ入ラズ、剩ヘ涼風起リテ神心爽快トナル、十二時床ニ入ル

七月 十二日 火

天氣 曇 暖

午前ハ数学ノ自習、

午后ハ散歩シテ帰リ夕方迄午睡、

夜十二時マデ数学ノ自習、

別ニ記スベキ出来事モ感想モナク神氣揚ラザル一日ナリ、

七月 十三日 水

天氣 善 暑

午前ハ例ニヨリ机ニ向ヘ共余リ読書ニ固着スル事能ハズ、蓋シ時候ノ加減モアラン、

午后ハ二時間許リ午睡ヲ貪リタル為メ夜ハ神氣爽快ニテ午前二時頃迄読書ス、

七月 十四日 木

天氣 善 暑

午前ハ引籠リテ読書、午后ハ二時頃ヨリ星川清松君訪ル、高等学校入試試験ハ本日ヲ以テ了レルガ氏モ甚ダ疲労セル

モノ、如ク綿ノ如ク成テ横臥シ居タリ、余モ次回ノ入学試験ニ応ズベキナルガ其時ニハ如何ナルベキ充分ナル備ヘヲ為シ得テ泰然自若タル事ヲ得ベキヤ、時ニ望ンデハ堂々タル武歩ヲ採リタキモノナリ、

七月 十五日 金

天気 曇 和

午前ハ家ニアリテ読書

午後ハ午睡ヲ食リ居タルニ中鉢吉内君ノ来訪ニ合ヒテ夢ヲ破ラル、

夜ニ入りテハ雨降り出デタレバ心持好ク数学ノ自習ヲ始メシガ十二時頃ニ至リテ蚊遣ニトテ薰シ置キタル香物ノ尽キ果テ蚊軍ノ来襲ニ耐ヘ兼子蚊帳ニ逃ゲ込ム、

七月 十六日 土

天気

此日ノ午后ハ中島君ヲ訪ル、

陰雲四天ヲ閉シ気分ノ優レザル事甚ダシク夕方ヨリハ頭痛覚ヘタレバ直ニ床ニ入ル

七月 十七日 日

天気

終日暑氣強シ、

夕方読書中フト故郷ノ空ヲ思ヒ浮ベテヨリハ帰心頻リニ襲ヒ来リテ胸静カナラズ、杖ヲ不忍池ニ曳キテ此氣ヲヤラントシテ家ヲ出デ上野辺ヲ散歩シ飯途ニハ星川君ノ許ニ立寄ル、

七月 十八日 月

天氣

愈々帰省ニ決シ、其旨家郷ニ云ヒ遣レリ、イザ帰トナレバ何ヤカヤノ取り止メモナキ思ヒノ雲ムラ／＼ト起リ拡ガリ終日呻吟ス、夕方涼風徐々ニ至ルノ頃ヨリハ小石川ニ佐々木先生ヲ訪レテ数旬ノ別レヲ告グ、例ニヨリ淡白ナル茶話ニ時ヲ移シ相モ更ラヌ先生ノ嫌味無サ、奥様ノ快活瀟洒、おばあサンノ親切、一チャン、二郎チャンノ機嫌好キ遊興等凡テ此レ冷腸ヲ暖メザルナリ、帰ルヲ忘レ十時ニ至ル、飯家後ハ数学等ノ復習ヲ始メ余リニ頭痛ノ具合宜シクシテ思ハズ夜ヲ更カシ一時頃ニ至リテ床ニ入ル、聞ユルハ只犬ノ遠吠ヘト蚊軍ノおたけびトノミ

七月 十九日 火

天氣 善 暖

十時頃読書シ居ル処ニ中島君ノ来訪アリ、暫ク面白ク話シタル後、本郷ノ龍岡町ニ星川清松君ヲ訪レタ方迄談笑ス、夕餉後ハ麻布ニ出掛ケ折下様ニ至リテ近日中ニ帰省スベキ旨ヲ告グ、夜ハ遅クナリテ宿ル、終日非常ノ暑サナリ、

七月 二十日 水

天氣 善 暑

朝古瀬様ニモ立寄リテ帰り見レバ昨夜細谷軍医ノ来訪アリテ二時間許リ待チ居ラレタリトノ事、氣ノ毒ヤラ残念ダヤラ、

併シ夕方再ビ来訪セラル、近日出征セラル、トノ事ナレバ此ガ暫クノ御別レナリ、

夕餉頃高橋哲太郎君来訪一緒ニ散歩シテ古本屋等素見シ露伴子ノ枕頭山水等ヲ得テ帰り中々面白ク讀ミテ夜ヲ更カシヌ、



七月二十一日 木

天気 善 暑

午前ノ中ハ枕頭山水等見テ暮シタレ共午后ハ余リニ読書モ叶ハ子バゴロくセリ、  
夕方ヨリ中島君來訪葛杖ヲ曳イテ靖国神社構内ニ至ル、名月高ク葉桜ノ陰暗ク中々ノ風情暫ク逍遙シテ別ル、  
家郷ヨリ旅費モ届キタレバ愈々明日ノ夜行列車ニテ帰省スル事ニ決シ、ソレド葉書等ヲ飛バシタリ

七月二十二日 金

天気 善 暑

帰省ノ途ニ上ル、昼ノ中ハ買ヒ物ヤラ、仕度ヤラニテ中々忙ハシ、  
昼餉後ニハ近頃知己トナレル商工中学校ノ古川氏來訪、試験問題等ノ話ヲ為シ居ル処ニ同宿ノ他ノ二氏モ会サレテ議  
論ハ忽ニ沸騰シ殊ニ本年度ノ大学予科ヘノ大学試験問題ハ論戰ノ好題トナリヌ、  
七時四十五分上野発ノ夜行列車ニ投ズ、同郷ノ高橋哲太郎、大沢きん子ノ二氏同室、夜更ル迄月明ナリシニヨリ窓外  
ノ夜景無聊ヲ慰ムルニ足レリ、

七月二十三日 金

天気 雨 和

夜分ヨリ雨トナリ福島ニ着キタルモ雨止マズ、茲ニテ三時十五分着ノ列車ヲ下リ五時四十分ノ二乗リ替フ、  
板谷峠ノ雨景一入美シク晴レ間くニハ霧ニ見ヘ隠レスル松柏ノ風情墨絵ノ如シ、  
斯如ノ風光ハコテくセル西洋ノ筆法ニテ写生センヨリハ、アッサリトセル我墨絵ノ筆ニヨルベキモノナラメト思ハ  
レタリ、

十二時少シ過グル頃新庄着、午后ト夜トハ本沢君、井上君等ト共ニ話シ食ヒ逍遙ス

七月二十四日 土

天気 雨 和

午前モ午后モ本沢君来訪、談話モ漸ク真実ニ入りテ中々ニ面白シ、  
夜ハ井上常松君ヲ訪レ十一時頃迄面白キ話為テ帰ル、

七月二十五日 日

天気 雨 和

午前中ハ降雨、午頃ニ至リテ止ム、  
昼餉後、叔父上ト共ニ俤ヲ雇フテ古口ニ帰ル、夜ハ合ヲ訪ル

七月二十六日 月

天気 善 暖

終日晴天、東京デナラ居テモ立ッテモ居ラレヌ程ノ天気ナレ共川風涼ク吹キ透シテ心持殊ニ好シ、  
夜ニ入りテ明月一入冴ヘテ輝キ出デケレバ叔父上ト共ニ橋畔ニ追フ、風情好キ山ノ彼方ニ月高ク澄メル有様氣高ク小  
川ノ漣ハソガ光ヲ碎キテ千々ノ真珠ヲ撒ラス等、身モ魂モ洗ヒ清メラル、此ヲ彼ノ紅塵裏ニ呻吟スル者ニ分チ与ヘ度  
キ心持ス、

七月二十七日 水

天気 雨 和

終日雨天、別ニ為セル事モナク一日ヲ暮ス、  
夜ノ十一時頃ヨリ余リ大出水ニ喧ギ出セリ、  
細谷軍医ニ宛テ、及ビ二三ヶ処ニ宛テ手紙葉書ヲ出ス、

七月二十八日 木

天気 善 和

朝ニ至リテ河水溢レテ往来ハ川ヲ成セリ、昼頃ニ至リテ落水ス、  
昼餉ハ叔父上ト共ニ合ニ招カル

七月二十九日 金

天気 晴 暑

叔父上ハ九時頃ヨリ帰途ニ着カル  
昼餉ハ皆川平内君ト合ニテ此レヲ共ニス、  
午后ハ昼寝シタル后華果ノ箭枝等シテ夕方ニ至ル、  
旅行記、感想録等取纏メ一封ノ書簡トシテ中島悌治君ニ送ル、  
夜ハ読書、終日晴天、暑氣アリ、

七月 三十日 土

天気 曇 和

終日曇天、時ニ細雨ノ霏々トシテ降ルアリ  
天ノ氣已ニ斯ノ如ク鬱陶シ、我心亦内ニ沈ミテ開ケズ、終日不快サ云フバカリナシ、  
夜ニ入りテ漸ク生キタル心持出ズ

七月三十一日 日

天気 善 暖

終日晴天、昨日トハ打チテ更ツタル陽氣ナリ、氣モ晴々シタリ、

午前中ハ讀書等始メシモ来客ノ為ニ妨ゲラル、午后ハ華果ノ徑長枝箭除ニ從事セル事一昨日ノ如シ、夜ハ此頃ノ例ニヨリ蚊帳ノ中ニテ讀書、規則正シク讀書スル能ハジ、己ガ心ノ締リ無サト克己心ノ薄弱ナルトヲ顧ミテ悶々ノ氣ニ耐ヘズ、乃チ天ヲ仰ギテシバシハ黙禱ニ耽リツ、

八月 一日 月

氣モ少シク締リ初メ讀書モ少シヅ、始マリヌ、他ニ記スベキ程ノ事モナシ

八月 二日 火

霧深カリシガ雨トナリ雨トナリ雨細カリシガ雷雨トナリ鳴動オドロ／＼轟キ渡リ天地モ動センバカリ、雨ハ盆ヲ覆スバカリ

讀書には心地宜シ、

中島悌治君ヨリ手紙届ケリ、中々面白キ事モアリ、

八月 三日 水

天氣 善 暖

新人社ニ宛テ会費ヲ送ル、下村氏ノ雜誌代モ、

此日ハ初メテ自ラ満足シ得ル程ノ讀書ヲ為シヌ、

午後モ一二時間頃ヨリハ心持ヨキ涼風ニ面ヲ払ハセナガラ文机ニ向ヘリ、

夜モ讀書ヲ始メシガ女子供ノ歌フ声耳ニ入りテ喧シ、

八月 四日 木

天気 善 暖

天気快晴心持宜シ

八月 五日 金

天気 善 暑

書籍類ノ虫干ス、唐詩選ノ古本ヲ得テ表紙等ヲ修繕ス、  
終日暑氣強シ、

八月 六日 土

昨日虫干セル書籍類ヲ倉庫ニ藏ム、  
午後ハ合ニ至リテ遊ブ、  
終日読書ニヨリテ得ル処皆無

八月 七日 日

天気 善 暖

午前中ハ読書ニヨリテ半日ヲ費シ、  
午後ハ前裁ノ辺ヲ掃キ清メナドス、  
夕餉後縁ニ出デ蚊遣火ナド烟ラシツ、ソレヤコレヤヲ思ヒ浮ベ居ル処ニ二氏ノ来訪アリ罪ナキ茶話ニ時ヲ過シテ十  
一時ニ至リス、

此日、休暇日ノ一日トシテハ其消光ノ仕方最モ妙ヲ得タリ、

此頃漸ク天氣ノ一定セルヲ見ル、毎日暖氣強ケレドモ西風心持好ク吹キ入りテ寒ニ注文通りノ天氣也

八月 八日 月

天氣 善 暖

天氣快晴西風心持好ク吹キ渡ル、

午前中ハ家ニアリテ読書ス、

午后ハ障子貼ノ手伝ナドス、

八月 九日 火

天氣 善 暖

午前中ハ家ニアリテ読書、此頃朝ノ内ハ霧深ク四辺閉シ、涼風徐ニ吹キ透スナド神氣清々シ、

午後ハ一童ヲ携ヘ小舸ヲ操リテ釣ニ出掛ケ夕方ニ及ビ、一鮎、二鮎ヲ獲テ歸ル、

夕餉後ハ蚊帳ノ中ニ横ハリ疲タル四肢ヲ打チ延バセル俟果敢ナキ夢ニ入りヌ、

八月 十日 水

天氣 善 暖

読書ナド始メシモ来客アリテ果サズ、

近頃ハ小舸ヲ操ル事ヲ運動ノ一トセリ、

八月 十一日 木

天氣 善 暑

午前中丈ケ読書、

一二日以来暑氣強シ、

新聞紙ニテ中島悌治君等ノ高等学校入学ヲ許可サレシヲ知ル、  
父上ハ湯ノ浜ヘト出掛ケラル

八月 十二日 金

天気 善 暑

近日ニナキ鬱陶シキ一日ナリシ、

昼飯ハ已吉氏ト共ニス、

夜ハ暑サモ暑シ、蚊モ五月蠅ケレバ蚊帳ノ内ニテ読書

八月 十三日 土

天気 善 暑

一日面白キ事モナシ、

八月 十四日 日

天気 善 暑

午前ニハ大場敏松君来訪、

昼餉ニハ㊦ニ招カレ良策氏ト久振リニテ会話シ商業ノ面白キ経験談ヲ聞ク、

近日華果ノ熟スルモノアリ毎日少シヅ、收穫ス、

八月 十五日 月

天気 善 暑

此頃ハ活氣ナキ五体ヲ制シカ子テ日ニ困リ入ルバカリナリ、  
夜ハ原田ノ叔母上来訪

八月 十六日 火

天氣 善 暑

陰曆七月六日ニ当ル事トテ夕方ニハ七夕祭ナドス、

八月 十七日 水

天氣 善 暑

原田ノ叔母上ハ早朝新庄ヘ向ケ辭シ去ラル、

中島君ヨリ手紙至ル、

八月 十八日 木

天氣 善 暑

終日好ク讀書ス、

此頃親類ノ十三四ニテ中学一年生ナル少年遊ビニ来居リテ毎日無邪氣ニ話シ戯ル、

八月 十九日 金

天氣 善 暑

近日ニ無キ蒸シ暑サナリ、午後ノ如キハ何モ為ス処ナシ、只少年等ト無邪氣ニ遊ブ、  
夜モ気分好カラネド強イテ机ニ向フ、  
本日得タル華果コソハ中々ノ美味ナリシ、



八月 二十日 土

天気 善 暑

午前中ノ中ハ好ク読書セルモ午后ニハ余リノ蒸シ暑サニ耐ヘ得デゴロリト打臥セル俟果敢ナキ夢ニ入りテ夕方ニ及ビ  
ヌ、

井上常松君ヨリ音ツレアリテ来ル廿九日頃上京セン君ノ方ノ都合ハ如何ニゾヤ等云ヒ送ル、

八月二十一日 日

天気 善 暑

記スベキ程ノ事モナシ、

八月二十二日 月

天気 善 暑

平凡ノ一日、ツマラナキ一日、

八月二十三日 火

天気 善 暑

夕方ニ墓参ス、

八月二十四日 水

天気 善 暑

夜ハ上京ノ仕度ナドス、

明朝出発トノ事ニテ甚蔵氏ヤ芳吉叔父上ノ来訪アリ、

八月二十五日 木

天気 善 暑

郷里出發上京ノ途ニ着ク、俾ヲ雇テ新庄ニ至レルハ十時頃、

昼飯後ハ本沢君ヲ訪レ次デ同道井上常松君ヲ訪レ雑談ニ面白ク半日ヲ暮シ、夕方ヨリハ井上君ト二人ノミトナリ夕餉ナド饗セラレユル、真面目ナル話シテ後ハ折柄ノ明月ヲ踏ミテ俱ニ杖ヲ旧城跡ニ曳ク、

八月二十六日 金

天気 善 暖

八時新庄発、

叔父上モ山形迄同道、山形ニテ暫シ下車シ叔父上ノ下宿ニテ昼餉ヲ終リ昼寝ナドシテ二時発ノ列車ニ乗ジ福島ニ到リ

夕方藤金支点ニ投ス、

夕餉後ハ同窓山岡次郎氏ヲ其宿舎ニ訪レ月ヲ賞シテ十時過ニ及ブ、

十二時廿九分発ニテ出發ノ予定、

八月二十七日 土

天気 善 暑

宇都宮ニ列車中ニテ旭光ヲ拝シ八時半ニ至リテ上野ニ着ク、直ニ麴町区ナル中島悌次君ヲ訪レ午頃帰ル、午後ハ午睡ヲ貪リ、夕方ヨリ小石川ニ佐々木先生ヲ訪フ、

八月二十八日 日

天気 曇 暑

麻布邸内ニ折下様ヤ古瀬様ヲ訪ル、

此日ヨリ鈴木珪二氏ノ弟君範三氏モ下宿ル

八月二十九日 月

天気 曇 暑

午前二ハ早稲田ニ至リ同中学校ニ欠員ノ有無ナド問ヒ会ハス、

八月 三十日 火

天気 雨 和

井上常松君本日ヲ以テ上京ノ予定ナルヲ以テ夕方雨ヲ突イテ本郷ニ至リ旭館ニ同郷ノ栗田清作君ヲ訪レシニ未ダ到ラズトノ事ナリシヲ以テ八時頃迄談話シテ帰ル、

終日雨天

八月三十一日 水

天気 曇 暖

午后再び旭館ニ栗田君ヲ訪レシニ井上君ハ神部君モ同道ニテ已ニ到ラレ居タリ、  
夜ハ同道日比谷公園等散歩ス、

九月 一日 木

天気 曇 暑

九時頃中島君来訪同道旭館ニ井上常松君ヲ訪レ三人同道出立デ上野浅草等歩キ廻リテ帰りシハ二時頃ニテソレヨリ夕方迄旭館ニテ昼寝シテ帰ル、  
夕餉後散歩ニ出掛ケ途中ニテ井上君等ト出逢ヒ同道帰り十時頃迄係ル、

二百十日ノ事トテ終日強風アリ、

九月 二日 金

天氣 善 暑

午前中ハ頭痛ヲ覺エ甚ダ不愉快ナリ、午后ノ暑サ一方ナラザリシヲモ強イテ讀書ス、  
夕方ヨリハ涼風ニ沐シ心持ヨク讀書

九月 三日 土

天氣 善 和

大成中学校ニテ五年級ニ補欠募集アルヲ聞キ此ニ応ゼンカト思ヒ立ツ、

九月 四日 日

天氣 善 暖

記スベキ程ノ事ナシ、

九月 五日 月

天氣 善 暑

此日ヨリ執行サル、大成中学校ノ編入試験ニ応ジテ五年級入学ヲ希望セリ、  
此日ハ終日曇天ニテ時々小雨ヲ漏ラシ只サハ陰氣ナルニ午後ニハ鈴木範三君ト四方山ノ話等語り交ハシ居ル内語頭ハ  
漸ク悲嘆ヲ惹起シ悲シサ極ナシ、

範三君ハ旧同窓鈴木珪二君ノ弟君ニシテ近頃ヨリ隣室ニ止宿セラル、

九月 六日 火

天気

九月 七日 水

天気 善 暑

入学試験ハ本日ヲ以テ終ヘタレバ午後ヨリハ早速中島悌次君ヲ麹町ニ訪レシニ不在ナリシ、  
夜ハ佐野為雄君来訪共ニ散策ヲ試ム

九月 八日 木

天気 善 暑

今日初メテ一日ノ閑ヲ得タレバ久シ振リニテ読書ニ耽ラント楽ミ居タル甲斐モナク、英文ファウストヲ読ミ始メタル  
処ニ森松蔵君ノ来訪アリ次デ中島、中山ノ二氏モ相次デ至ル、  
午後ハ中山君ト共ニ青山ニ至ル、

午後ニ入りテ初メテ机ニ向ヒテ静座スル事ヲ得タリ

九月 九日 金

天気 善 暑

大成中学ヘノ入学試験ハ意外ニモ首席ヲ以テ合格セリ、  
午後ハ佐々木先生ヲ訪レテ在学証ヘノ署名ヲ乞ヒ夜ハ旭館ニ井上常松君ヲ訪フ、会スルモノ八人ニ及ビ実ニ盛ンナル  
会合ナリシ、

九月 十日 土

天気 善 暑

大成中学校ニ入学ス、

大成中学校ニ至リ在学証明書等収メテ入学ノ手續ス、

夜ハ面白ク読書シテ更カス、

九月 十一日 日

天気 善 暑

八時三十五分発ノ列車ニテ仙台ニ出發サル、中島悌次君ヲ上野停車場ニ見送ル、井上、安喰ノ二氏共ニ在リ、  
十時ヨリハ本郷教会ニ至リ久シ振リニテ海老名先生ノ高風ヲ仰グヲ得タリ、

午後八同郷ノ友人八人連レニテ六郷川ニ舟ヲ浮ベテ夜二及ビ十時頃ニ至リテ帰り着ク

九月 十二日 月

天気 曇 和

此日ヨリ初メテ学校生活ヲ始ム、

久シ振リニテ五時間モ授業ヲ受ケタル事ナレバ身神疲労シテ綿ノ如ク午後ハ午睡ス、

夜ハ心持ヨク読書、

細雨降り出デ風モ加ハリテ破窓ヲ訪レ、星一ツ高く輝ケル等モヤレ目ヨリ見ヤラレテ感深カリ

九月 十三日 火

天気 善 和

昨日ヨリ学校生活ヲ始メタレバ終日ノ出来事至極单调トナリス、朝起キテ昇校セバ五時間ハ平凡ノ教育ヲ授ケラレ、

校ヲ退キテヨリハ復習予習ニテ日ヲ暮シ、此外別ニ面白キ事モナキナリ、

九月 十四日 水

天気 善 和

平凡ニシテ好クモナケレバ悪シキモノキガ我中学校ノ先生連ナルガ如シ、

歴史科ニ井原儀先生ト云フアリ就中我意ヲ得タルガ如シ、真摯ニシテ修養アル好先生ト見受ケタリ、一生ガ初対面ニテ得タル觀察誤ナキヲ得ベキカ否カ、

九月 十五日 木

天気 善 和

国語科ノ先生平田盛胤氏ノ講義中々氣ニ入りタリ、

九月 十六日 金

天気 曇 和

理化学科ノ中谷平四郎先生教授ニ妙ヲ得タリト覺ヘタリ

九月 十七日 土

天気 風 暖

終日風烈シ、

午后ハ閉ヂ籠リテ淋シク思ヒ居タレニ井上常松君來訪、氏ハ此頃ヨリ早稲田大学ニ入学サレタリ等程々ノ話アリ、夕方ヨリハ二人ニテ三田四国町ナル同郷ノ山崎純君ヲ訪ヒ慶応義塾ノ構内ヲ散歩シ、塵都ヲバ眼下ニ見下シ高ク並ベル寄宿舎ニ燈栄エテ数百ノ健児今ヤ読書ニ余念ナキ有様ヲ見テ物故セル福沢先生ガ慕ハシク想ハレヌ、

九月 十八日 日

天氣 善 暖

昨夜ハ井上君ト語り更シ、今朝ハ共ニ携ヘテ本郷教会ニ至リ海老名先生ノ氣高キ声咳ニ接ス、午後ヨリハ杖ヲ曳キテ植物園ニ至ル、秋景色一入ノ趣アリ、井上氏稱賛惜カズ、以後ハ書物トモ携ヘ共ニ一日ノ清遊ヲ試ムル事ニセシ等話シ合ヒテ帰途ニ着ク

九月 十九日 月

天氣 雨 和

中学ニ居テハ學業ノ進歩余リニタド、シキヲ今更ニ思ヒ廻ラシテ如何ニスベキ等思ヒ煩フ、終日細雨晴レズ淋キ一日ナリ、仙台ニ赴カレタル中島君ヨリ手紙到ル

九月 二十日 火

天氣 雨 和

終日雨降り、面白クナキ一日

九月 二十一日 水

天氣 曇 暖

午後井上常松君來訪夕方迄面白ク文學上ノ談話ス、引續キテノ雨天晴始メタリ

九月 二十二日 木

天氣 善 暖



午後ハ井上常松君ト早稻田ニ栗田清作君ヲ訪ル、暫シ紅塵ヲ避ケ彼方ニ青松白壁ヲ望ミテハ清興極ミナカリシ、  
帰途ニハ井上君ノ為メニ宿屋ヲ探ス、

九月二十三日 金

天気 善 暖

終日家ニ在リテ読書ス、

此度第一高等学校ニ入学サレタル星川君ヨリ音信ヲ得タレバ返事ヲ認メシモノト筆取シニ感想ムラ／＼ト浮ビ出デ三  
尋ニ及ブ手紙ヲ得テ送りヤル、  
夜ハ源氏物語等繙キテ更カス、

九月二十四日 土

天気 曇 冷

夕方旭館ニ訪レシニ何レモ不在（此頃同館ニハ同郷ノ者四人計リ止宿ス）ナリシニ加ヘテ帰途ニハ篠ツク如キタ立ニ  
遭イテ滯レ鼠

夜ハ鈴木範三君モ夜学帰途雨乞ヒニ立寄ラレテ宿ル事トナル、

九月二十五日 日

天気 雨 冷

午日雨天

十時ヨリハ本郷教会ニ至ル、

午後ハ新庄義友会ノ例会アリシモ出席セズ後ニテ聞ケバ朝潮艦長松永少佐ノ旅順実戦談ノアリシ由、行クベカリシニ

……

三時頃迄鈴木範三君ト中山君ノ室ニテ茶話ス、

九月二十六日 月

天気 曇 和

午後旭館ニ井上君ヲ訪フ、

九月二十七日 火

天気 曇 和

午后井上常松栗田清作ノ二氏来訪、

栗田君ノ催眠術ハ中々ノ聞キ物ナリシ、

夕飯ヲ共ニシ招魂社構内ヲ散歩ス

九月二十八日 水

天気 善 和

午后午睡ヲ貪リタル御蔭ニテ夜ハ近日ニナキ程ノ勉強ヲ続ケタリ、

天気快晴向ハントシ神氣爽ナリ、

九月二十九日 木

天気 善 和

別に記スベキ程ノ事モナシ、

九月 三十日 金

天気 善 和

満州出征中ノ同窓鈴木珪二君ヨリ手紙到ル、嘸ヤ艱難辛苦ニ耐ヘ兼子居ル事ト思ヒキヤ、

「只今は氣候も中々宜しく広漠たる北清の野の草の露は紫の光をはらむで雑草の茎を去る様や茫然として霞の内に見ゆる満州の山々は好個の画題である」云々……

ナド、其仗々タル胸中ノ閑日月ヲ示サレテハ日夜碌々タル身ノ恥入ル外ゾナキ

十月 一日 土

天気 曇 和

風邪ノ氣味アリ頭痛ヲモ感ジ初メタレバ第三時間ヨリ欠席シテ床ニ臥ス

夕方床ヲ辞シ、氣バラシニトテ牛込ニ井上常松君ヲ訪フ、会スルモノ五六人愉快ナル談話ノ後波多野君（一高ノ）ト共ニ星ヲ頂イテ帰ル、

十月 二日 日

天気 曇 和

十時ヨリハ井上常松、栗田清作ノ二君モ俱ニ本郷教会ニ至リ海老名先生ノ高訓ニ耳傾ク、

午后ハ同窓ノ旧友四人ガ米国へ出發サル、ニ別レヲ告ゲントテ其寓ヲ三田四国町ニ訪フ、旧友トハ伊藤政治 莊司新四郎、津藤次郎、岸正ノ四氏ナリ、近日横浜出帆、米国へ移住ニトテ出發サレントス、品川停車場ニ至リテ訣別ス、折柄ノ曇天、感一シホ切ナルモノアリ、

夜ハ雨ヲ突イテ本郷教会ニ至リ、再ビ先生ノ説教ヲ聴ク、

十月 三日 月

天気 曇 和

午後満州ノ野ニ軍ニ從フ鈴木圭二君ニ手紙ヲ認ム、

十月 四日 火

天気 曇 和

夕方ヨリ井上常松君來訪共ニ机ニ對シテ讀書スル事一時間計リノ後ハ茶話ニ移リ、真心モテ語り出ヅル談話ハ綿々トシテ絶エズ、

十月 五日 水

天気 雨 和

午前三時ニ目ヲ覺マシタレバソレヨリ讀書ヲ始ム心地好シ、

午後モヨク讀書スルモ得タリ、

夜ハ鈴木範三君ト中山君ト來リ會シテ雜談ニ時ヲ移ス

十月 六日 木

天気 善 暖

出征中ノ鈴木圭二君ヨリ手紙來ル、

返事ヲ認メテ送ル、其併キニ同郷ノ細谷軍医ニモ手紙送りヤル、

明日ノ遠足會ノ準備等ス、

十月 七日 金

天気 曇 和

本日ハ我大成中学校々友会ノ秋季遠足会ノ催アリ、乃チ四時半ニ床ヲ辞シ五時頃ニハ予定ノ如ク飯田町停車場ニ参集シ六百名計リノ一隊ハ堂々トシテ特別仕立ノ列車ニテ出発セルハ六時ニ近カリシ、目的地ハ甲州猿橋及若殿山ニアリ、猿橋停車場ニ着セルハ十時頃、ソレヨリ奇景ノ辺ヲ徘徊シ次第登山シ、充分ニ風光ヲ称シ、夕方ニ至リテ再ビ猿橋ヨリ汽車ニテ帰着セルハ九時過ぎ、

十月 八日 土

天気 曇 和

疲労ノ為メ終日休養、

夕方井上常松君ト共ニ旭館ノ二三氏ヲ訪フ、別ニ面白キ話モナカリシガ帰途井上君ト共ニ新三崎橋畔ヲ逍遙ス

十月 九日 日

天気 曇 和

井上常松君ト共ニ本郷教会ニ至リテ礼拝ス、

午后ハ当教会ニ於テ明道会ノ例会アリシヲ以テ久シ振リトテ出席セシモ格別面白クモナカリシ、只海老名先生ノ懐旧談及チ先生ガ中学時代迄ニ受ケラレタル教育ニ就テ批判旁々ノ談話アリテ中々ニ珍ラシク有益ナリシ、

夜ハ読書

十月 十日 月

天気 雨 寒

此日ハ終日雨天、加フルニ冷氣甚ダシク為メニ風邪ニ冒サル

十月 十一日 火

天気 曇 冷

病ヲ勉メテ昇校ス、頭痛モ次第二高マリ苦シサ云ハン方ナシ、幸ニシテ漢文科ニ休講アリシヲ以テ四時間ニシテ下校スルヲ得タリ、

午後ヨリ夜ニ掛ケテ床中ニ呻吟ス、

家郷ヨリ蒲団、綿入等ノ荷物到着ス、林檎等モ六ツ七ツ包ミアリ、厚キ恵ミニ咽ビツ、同宿ノ中山君ニモ分子与ヘテ食フ、

十月 十二日 水

天気 曇 和

風邪ノ気味未ダ全ク去ラザルモ元氣ヲ励マシテ昇校ス、

午后ハ読書ス、

夜ハ中山君、佐野為雄君、鈴木範三君等来リ訪ハレタレバ茶話汲ヒテ談笑スル間ニ沈ミタル元氣再ビ興ル

十月 十三日 木

天気 雨 和

風邪未ダ去ラス、

十月 十四日 金

天気 曇 和

風邪少シク衰フ、

終日室居

十月 十五日 土

天気 曇 和

風邪ノ氣モ衰ヘタレバ夕方ヨリ牛込津久戸ニ井上常松君ヲ訪フ、栗田、波多野ノ二氏モ来リ会シテ快談高議ニ快ヲ呼ブ、

余リニ時モ移リタレバ余ノミハ宿ル事トセリ、  
積ル話ニ夜ヲ更ス、

十月 十六日 日

天気 曇 和

昨夜ハ一時過ギニ至リテ夢ニ入ル、

八時頃起キテ朝飯等シタ、メ居ル所ニ栗田清作、清野ノ二氏来ラレ井上氏ト三人連シテ向島ニテ行ハル、早稲田大学ノ短艇競漕会ニ赴ラル余ハ途中ニテ別レ本郷教会ニ至ル、途中ニテ波多野君ト逢ヒ共ニ至ル、

午后ハ同君ト信仰話、煩悶話ニ時ノ移ルヲ知ラザリシ、

夜ハ朧月ニウカレ出デ、牛込津久戸ノ井上君ニ立寄ル、

胸モハリ裂ケンバカリノ思ヒヲ以テ本沢一甫君ノ放縦ヲ諫ムルノ文ヲ草シ始ム

十月 十七日 月 神嘗祭

天気 雨 冷

終日雨天、

午前ハ家ニ在リシガ格別ノ事モ出来ズ、

午後ハ井上常松君来訪、恰モ草稿中ノ本沢君ヲ諫ムルノ書ナド示シ共ニ同氏ノ身ヲ氣遣ヒ、且ツハ無邪氣ニ遊ビ廻リ

シ小学校時代ノ事ナド回想シテ感慨転々禁ジ難ク共ニ無音ニテ太息ノミスル事久シ、  
夜ハ小磯照輔君（高商）井上君ノ三氏連シテ雨ヲモ構ハズ錦町松本亭ニ薩摩琵琶ヲ聞ク、肥後先生トヤラノ本能寺最  
モ感動ヲ与ヘタリ

十月 十八日 火

天気 雨 和

終日雨天、

意気拳ゲズ、

上山宇平次君ヨリ「鹿児島語ト普通語」ナル小冊子贈ラル、中々面白ク珍ラシ

十月 十九日 水

二日ヲ費シ真心コメテ書キ認リ本沢一甫君ニ宛テ、其放縦ヲ諫メタル手紙ヲ投函ス、  
夕方少シク睡眠シタ飯後ハ青戸藤吉氏来訪アリテ快談セルヲ以テ神氣興奮シ読書意ノ如ク思ハズ夜ヲ更カシ明日ヲ氣  
遣ヒテ床ニ入ル

十月 二十日

天気 曇 和

夕餉后久シ振リニテ散歩ヲ試ミ古本屋ナドアサル、財布ハ輕シ、買イ度キ書物ハ多シ、嗚呼我ニ僅拾円ノ金アラバト  
帰途思ハズ嘆息ス、

中山喜一、鈴木範三ノ二氏会シテ雑談ニ時ヲ移ス



十月二十一日 金

天気 雨 和

本日ハ陰曆九月十三日夜、同宿ノ中山喜一君ト月見蕎麦ニテ月ヲ称ス

十月二十二日 土

天気 曇 和

夕方慶応ノ山崎純君来訪、

夜ハ仙台ノ中島治君ニ手紙ヲ認ム、

十月二十三日 日

天気 曇 和

井上栗田ノ二君ト共ニ教会ニ至ル、安部磯雄先生ノ「清キ心」ト云フ説教ニハ大ナル靈化ヲ与ヘラル、波多野君モ加  
ワリ四人連レニテ帰り快談沸クガ如シ、

二時頃ヨリハ戸沢正史君ト森松蔵君ノ寓ニテ会合ス連ルモノ井上、栗田、波多野、小野等ノ総テ八人、

夜ハ和訳ノ「クリスマスカロル」ヲ得テ面白ク読ミ思ハズ夜ヲ更カス、

十月二十四日 月

天気 曇 和

鹿兒島ノ上山宇平次君ヨリ手製ノ写真三葉ト面白キ手紙届ケリ、

夜ハ五六人連レニテ戸沢正史君ヲ上野停車場ニ送ル、蓋シ君ハ本日ヲ以テ陸軍士官学校ヲ卒ヘラレ二日ノヨカラ得テ  
帰郷セラル、ナリ、帰り途ニハ本郷旭館ニ立寄り、安喰、小磯、井上、栗田ノ諸氏ト会談ス、

十月二十五日 火

天氣 曇

和

夕方井上常松君來訪、今夜一夜ハ種々ノ積ル話ニ更セリ、

十月二十六日 水

天氣 曇

和

露伴先生ノ「譚言」ヲ得テ嬉シサ極リナシ

十月二十九日 土

天氣

夜ハ久シ振リニテ小石川ニ佐々木先生ヲ訪フ、

十月 三十日 日

天氣 曇

冷

十時ヨリ本郷教会ニ至レル外ハ家ニ引籠リテ讀書ス

十月三十一日 月

天氣 曇

和

神田ノ矢沢ヨリ本郷ノ朝日館ニ移ル、

夕方ヨリ安喰正吉君ノ手伝ヒニテ本郷ノ朝日館ニ移ル、

波多野清太郎君ト九時過ぎ迄シンミリト話ス

十一月 一日 火

天氣 曇

冷

高等学校ノ波多野君ヨリ校友会雑誌二部ト帝国文学一部トヲサレ人ニ托シテ寄セラル、少カラヌ興味ヲ以テ読ミ行ケ  
リ

十一月 二日 水 天気 善 和

桜島ノ上山翠葉子ニ宛テ手紙ヲ認ム、近頃俗ニ化シテ変々タル奇骨ノ見ル可ラザルニ至レリ譴メ、終リニ我昨今ノ感想ヲ述ベ、希望ニ懂ガレツ、ソヲ実現セントシテ刻苦慘憺タルモノアルヲ云ヒ終リテ「ア、思ヘバ苦シム能ハザルモノコソ禍ナレ」ト呼ベリ、

十一月 三日 木 天長節 天気 快晴 暖

終日天気快晴一点ノ曇ナシ、

午前中ハ家ニ読書シ午後鬱ヲ散ゼントシテ上野ニ至レリシモ人手ノ多カリシ為メ麈芥ニ碎ハサレテ飯ル、不快甚ダシ、

夜モ家ニアリテ読書

十一月 四日 金 天気 暑 和

新タニ移レル此度ノ室ニ床ハアレドモ共掛物ナクテ余リニ殺風景ナレバ応ハシキ程ノモノ贈リテヨト新庄ナル叔父ノ許ニ乞ヒヤル、

十一月 五日 土 天氣 暑 和

招魂祭ナレバトテ三時間丈ケノ課業ニテ帰ル、  
午後ハ習字等ス、

夕方高等學校ノ波多野君來訪同道上野公園ニ白馬会ヲ覽ル、一二枚ノ人物画ニハ抱キ付キテキッスシタキ程ノモノアリ、元祿ノ頃ノ若キ男女ノ二人ヲ画ケル大帳ノヲ見テハ昔恋シサニ耐ヘザリシ、

夜モ二人連レニテ牛込ニ井上常松、小磯昭輔、栗田清作、安喰正吉四氏ノ自炊軒ヲ訪フ中々盛シナモノナリ

十一月 六日 日 天氣 曇 和

終日引籠リテ讀書、

昼餉后駿河台ノ寓ニ中山喜一君ヲ訪レ帰途古本屋ニ立寄りテラムノシエーキスビヤヲ得タリ、

夜ハ新人ヲ愛読ス、内々崎氏ノ「思潮評論ヲ読ム」最モ印象ノ深キヲ得タリ、一本ヲ求ムルノ念禁ジ難シ、サレド囊裡ノ寒氣零点下ナルヲ如何セン、

此日ハ何トハナシニ氣ノ向カザリケレバ教会ニハ行カザリシモ好キ一日ナリシ、満足シ得ベキ安息日ナリシ

十一月 七日 月 天氣 善 和

夕方ヨリ一高ノ波多野君來訪共ニ讀書シ互ニ語リテ九時頃ニ至レリ、

十一月 八日 火

天気 善 和

夕餉后ハ井上、安喰、小磯ノ三氏来訪隣室神部義太郎君ノ許ニテ茶話ス、  
茨城ノ下村君ヨリはがき来ル、本月分ノ新人ニテ大西博士ノ思潮評論ニ関スル記事ヲ得テ一本ヲ得ント思フ事切ナ  
リ、君ガ意見如何ニナド云ヒ来ル、

十一月 九日 水

天気 善 和

下校ノ途駿河台ニ中山喜一郎君ヲ訪フ

十一月 十日 木

天気 曇 和

午後波多野君来訪、

十一月 十一日 金

天気 曇 和

午後第一高等学校ニ波多野清太郎君ヲ訪ヒ食堂ニテ夕餉ヲ饗セラレテ帰ル、  
来秋ヨリハ余モ此処ノ人トナルカト思ヘバ慕ハシク思ハル

十一月 十三日 日

天気 晴 和

朝来快晴、

十時ヨリハ教会ニ至ル、

午後ハ波多野、栗田両氏ヲ初メ森、神部、神崎ノ三氏モ会シ夕方迄陽氣ニ談笑ス

十一月 十四日 月

天氣 風 和

朝来風吹キテ紅塵舞ヒ心地惡シサ云ハン方ナシ、

夜ハ余リニ氣モ進マザリシガ隣室ナル神部義太郎君ノ誘ヒニ従ヒ井上君等ヲ訪フ

十一月 十七日 木

天氣 善 和

金田歩兵中尉負傷シテ帰国セラレ、小野榮作君ノ室ニ宿ル、

夜ハ波多野君来訪、

満州軍中ノ鈴木圭二君ヨリ手紙到ル

十一月 十八日 金

天氣 善 冷

夜ハ心持ヨク読書ス、

十一月 一九日 土

天氣 善 和

午後増鏡ヲ繙キテ興ニ入ル、

夜ハ井上君栗田君来訪ユル、話シスル暇モナカリシガ次第来レル中山喜一君ト八十時頃迄談笑ス、話題ハ主ニ古文ノ上ニ係ハレリ、

十一月二十日 日

天気 善 和

教会ニハ行カズシ引籠リテ読書ス、

熊谷敬助君、波多野君等相次デ訪ハル、

夕方不忍池畔ヲ散歩ス、

十一月二十一日 月

天気 善 冷

疲労ヲ覚エタレバ午后ハ睡ル、

夜ハ波多野君来訪

十一月二十二日 火

天気 曇 冷

別ニ深キ理由アリシニアラ子ド学校ニハ行カズシテ数学ヲ自習ス、

午後散歩旁ニ書店ヲ漁リテ「バンヤン」ノ天路歷程ヲ得テ得意云フ可ラズ、

父上ヨリ学資送來ル、目下県会ニ出席ノ為メ山形市ニ滞在ナリトノ事、

満州軍中ノ鈴木君ヨリ手紙到レルヲ以テ返書ヲ認ム

十一月二十三日 水 新嘗祭

天気 善 和

早朝ヨリ旭光美ハシク世ニ望ミ、終日快晴一点ノ曇リモナク爽快ナル一日ナリシ、

波多野君来訪、或ハ共ニ書ヲ繙キ或ハ面白ク有益ナル談話ニテ昼ニ及ベリ、

午后牛込ニ井上君ヲ訪ネシモ不在

十一月二十五日 金

天気 曇 寒

夜出デ、久シク渴望シ居タル「復活ノ曙光」ヲ得テ帰ル、

一文ヲ草シ始メ深更ニ及ビテ終ラズ、

之レヨリ先七時頃久シク北海道ニアリシ旧同窓服部繁雄君来訪、中山喜一君モ同席ナレバ談話次第ニ興ニ入り思ハズ時ヲ移セリ

十一月二十六日 土

天気 雨 和

学校ニハ行カズシテ独リ静カニ「復活ノ曙光」ヲ繙キ興ニ入り時ノ移ルヲ知ラズ、

夕方波多野君来訪、時間ハ短カカリシモ談会ハ宗教ニ及ベリ、

④ノ叔父上ヨリ奈良漬贈リ来ル、味甚ダ佳シ、草稿ノ筆ヲ擱キシハ午前四時ナリシ、疲労シテ床ニ入り八時ニ起床、

十一月二十七日 日

天気 善 和

午前中ハ引籠リテ読書ス、

午後図書館ニトテ出掛ケシモ途中ヨリ引キ返セリ、

夜モ引籠リテ読書



十一月二十八日 月

天気 善 和

夜、波多野君来訪

十一月二十九日 火

天気 善 冷

記スベキ程ノ事モナシ

十一月 三十日 水

天気 善 冷

母上ヨリ手紙到ル、父上何時ニナク御健カニテ持病ノ「レウマチス」モ発セズ目下県会ニ出席ノ為メ山形市ニ滞在中ナレドモソレ等ノ心配ナキハ何ヨリ喜バシ、又一日一日二間ニ合セ様トテ染屋ニ以来シ置ケル黒羽織ノ中々ニ出来ソウモナキニハ困リタリ等、文字コソ拙ナケレ何時ニナク流暢ニ書キ送ラレタリ、

十二月 一日 木

天気 曇 冷

五円丈ケ靴ノ新調代ニトテ母上ヨリ贈リ来シヲ四円丈ケノ靴ヲ仕立サスル事ニシテ残り一円ニテハ予テヨリ渴望シ居タル「チールス、ラム」ノ沙翁物語ヲ購ヘリ、読ミテ得ル心ノ楽シサ喜バシサハ机上ニ燦爛タル美本ニ対シテ得ル目ノ快サト相和シ暫シハ甘キ思ヒニ酔ヒ終リヌ

十二月 二日 金

天気 雨 冷

夜ハ波多野君来訪、美文英訳ニ心ヲ碎キテ十時ニ至ル、

十二月 三日 土

天気 曇 冷

夕方同級生ノ吉田勘太郎君来訪数学等復習ス、

十二月 四日 日

天気 快晴 和

午前中ハ引籠リテ読書、教会ニモ行カズシテ独リ静カニ「パンヤン」ガ天路歷程ナド繙ケリ、  
午後上野図書館ニ至リシモ已ニ満員ナリシ為メ少シク逍遙ヲ試ミテ帰ル、

十二月 七日 水

夜井上、栗田二氏ヲ初メ波多野、森ノ諸氏相会合シ忘年会センナド語り合ハス、

清水ノ高橋源助氏上京、

十二月 八日 木

天気 風 和

南風吹キテ心地悪シキ一日ナリシ

十二月 十日 土

天気 雨 冷

夜ハ牛込ナル井上君等ノ自炊軒ニテ忘年会ヲ開ク会スルモノ主人公タルベキ井上、安喰、小磯、栗田ノ四氏ヲ初メ波多野、清野、鈴木、神部ノ四氏ト余トヲ合ハセテ九人、中々ノ盛会ナリシ夜ヲ更カシテコ、ニ宿ル、

十二月 十一日 日

天気 善 冷

牛込ヨリ帰レルハ九時頃ナリ、

終日読書、

夜ハ神部君ト共ニ森君ヲ訪フ

十二月 十二日 月

天気 曇 和

本日ヨリ学期試験開始

十二月 十三日 火

天気 曇 寒

英語ト物理ノ試験ナリ、景氣好シ、

夕方ヨリ振り出セル雨化シテ雪トナル寒氣強シ、

夜ハ読書ニ更ケタリ

十二月 十四日 水

天気 雪 寒

昨夜来ノ降雪止マズ、麿界モ仙境ト化シ去レリ、朝机ニ凭レテ沈思ノ末ヒ子リ出セルハ、

みやび人のあわれとめづる今朝の雪を

樽ひろふ児の如何にふむらん

本日ノ試験ノ景氣ハ良好ナリ、

十二月 一日 木 天気 曇 冷

代数ノ試験ニハ甚ダシキ不覺ヲ取り不平ニ耐ヘズ、意氣消沈ス

十二月 一六日 金 天気 雨 冷

和及英訳ト化学トノ試験ナリ、景氣不良ノ方ナリ、

十二月 一七日 土 天気 曇 和

学期試験モ本日ニテ終了、

午後ハ波多野君來訪、

夜ハ井上常松君來訪蓋シ明日帰省ノ途ニ上ルベキヲ以テ大ニ語ラントテナリ、思ハズ夜ヲ更カシテ三時ヲ聞キテ初メテ夢ニ入ル、

十二月 十八日 日 天気 善 和

井上君ハ昼頃迄ノ予定ニテ床中ニアリ僕ハ枕辺ニテ天路歷程ナド繙キ居タルニ叔父上來訪セラル只今上京トノ事夕餉ニハ神部井上ノ二氏ヲ加ヘ四人ニテ大ニ食ヒ且飲メリ、蓋シ叔父上大ニオゴレルナリ

午後ハ井上君ト共ニ古本屋ナドアサリ、夜七時四十五分ニハ栗田君ト共ニ井上、神部二氏ノ帰省ヲ上野停車場ニ送ル

十二月 十九日 月 天気 善 冷

叔父上ト共ニ麻布ニ入キ吉高様ノ宅ヨリ別レテ青山ニ廻リ大屋準三君ノ許ニテ夕餉ヲ饗セラレテ帰ル

十二月 二十日 火

天気 善 冷

午前ハ露伴ノ調言ナド繙キテ面白ク読ム、

午餉后近所ノ寓ニ叔父ヲ訪ヒ二時辞シテ出テ古本屋ナドヒヤカシ帰ル、

夕方迄英習字ニ凝ル、

夜モ静カニ読書、

十二月二十一日 水

天気 曇 冷

午前中ハ引篋リテ読書、

午后ハ波多野君来訪、三時ヨリ審美学会ノ講演会ニ出席セリ、

再ビ家ニ帰リテ后ノ談話ハ宗教ニ関シテナリ、共ニ今更ノ如ク思想ノ不統一ヲ慨クノミ、

十二月二十二日 木

天気 曇 冷

午前中ニハ調言ナド繙ク、

午后ハ午睡ヲ貪ル、

夜ハ蕭々タル細雨ヲ聴キツ、  
「ハムレット」ナド読ム、

栗田清作君（牛込自炊軒内）ヨリはがき到ル曰ク

安喰君昨夜上野発ニテ帰郷ノ途ニツケリ、旧晚小磯君モ御帰省ノ筈ニ候ヘバ明夕方ヨリ御泊リノ予定ニテ御遊ニ御出下サレ度不肖子無聊ニ苦シミ居リナバ好書携帯モ亦一興ト存候君ソレ如何

十二月二十三日 金

天気 曇 冷

夕方ヨリ牛込ニ栗田清作君ヲ訪フ、初メハ共ニ机ヲ囲ミテ讀書ナドモシケルガ後ニハ談笑ノ内ニ夜ヲ更カス、共ニ枕ヲ並ベテ夢ニ入ル、

十二月二十四日 土

天気 善 冷

八時頃栗田君ノ許ヲ辞シ久シ振リニテ輝キ出デシ旭光ニ沐シツ、心地好キ江戸川ノ畔、葉ノナキ桜樹ノ間ニ道ヒツ、帰ル、

露伴叢書ヲ得タリ、二日物語今更ノ如ク愛読ス、

夜ハ六時ヨリ波多野、栗田ニ君ト共ニ本郷教会ノ「クリスマス」ニ出ツ、無邪氣ナル歓楽ノ内ニ入りテ邪念モ何処ヘカ姿ヲ失フシト覺エシ、

十二月二十五日 日

天気 善 冷

十時ヨリハ久シ振リニテ海老名先生ノ説教ニ耳傾ク、留守居中ニ檜岡徹君佐々木ノ二朗チャンヲ携ヘテ来ラレシト、口惜シキ事シテケリ、

午後ハ佐々木先生ヲ訪フ、例ニヨリ奥様初メ一家ノ和氣藹々無邪氣溢ル、計リノ内ニ夕餉ヲ饗セラレテ帰ル、久シク

クスブリテ頭脳ヲ痛メ情緒ヲ乱セル身ハ此日ノ帰りニハ何トハ知ラズ足ヲ運ビノ輕ヤカナルヲ覺エヌ

十二月二十六日 月

天氣 善 冷

七時頃未ダ床ヲ辞シ難クテアリシニ中山喜一君來ル、朝寝ニ名ヲ得タル先生ノ時ナラヌ御來臨、天氣ノ程モ氣遣ハシナド笑声ノ内ニ床ヲ出ヅ、聞ケバ上野ニ同郷ノ若キ令嬢ヲ見送りニ行キ時間ニ遅レテ臍ヲ噛メリトテ不平タラ／＼ナリ、恰カモ手元ナリシ鮭ノ小切れ等炙リテ共ニ食フ、

夜ハ高等學校ノ熊谷敬助、渡辺忠治ニ君ト共ニ散歩ヲ試ミ梅月ニ栗饅頭ノ美味ヲ賞ス、茶話トシテハ小六ヶ敷修養論ヲ持ち出サレヌ、

十二月二十七日 火

天氣 善 暖

伊豆ノ伊東温泉ニ此休暇ヲ暮サントノ心繁クニ動キテ止マ子バ旅行案内ナド求メシモ折悪シク品切れノ由ニテ果サズ、如何ニセンカト思ヒ迷フ

十二月二十八日 水

天氣 善 和

正午頃迄ハ露伴叢書ヲ繙ク、

午后ニハ神崎誠君ト共ニ牛込津久土八幡前ニ栗田君等ノ新寓ヲ訪フ、高等學校ノ波多野君モ此休暇中寄宿シ居ラル、共ニ讚美歌ヲ唱ヘ平家物語ナドヲ高ラカニ誦ジナドシテ夕方帰ル、

夜ハホト／＼讀書ニ倦ミタレバ駿河台ニ中山喜一君ヲ訪ヒ、伊豆ヘノ旅行計画ナドシテ夜ヲ更カシ終ニ宿ル

十二月二十九日 木

天気 善 和

九時頃中山君ノ許ヨリ帰リテ後昼頃迄「詩聖ダンテ」ヲ繙ク、

午後ハ小野栄松氏ノ室ニテ茶話ス、

夜ハ栗田波多野ノ二氏ヲ初メ中山小野二君モ相シテ旅行談盛シナリ

十二月 三十日 金

天気 曇 冷

午前中ニハ「詩聖ダンテ」ナド面白ク読ム、

午後七時半靈岸島発ノ太陽丸ニテ中山氏ト共ニ伊豆伊東ニ向フ、

十二月三十一日 土

天気 善 暖

熱海沖ニテ旭光ヲ拝シ伊東ニ着キシハ九時頃

芹沢ト云フナル湯本館ニ投ズ、

輕少ナラズ舟ニ酔ヒタレバ床ヲ延ベテ休養ス、